

平成25年度 業務実績報告書

平成26年6月
愛知県公立大学法人

(1) 現況

① 法人名

愛知県公立大学法人

② 設立年月日

平成19年4月1日

③ 所在地

長久手市茨ヶ廻間1522番3

④ 役員の状況

理事長 笹津 恭士

副理事長 2名

理事 3名

監事 2名

⑤ 設置大学

・愛知県立大学

(学部)

外国語学部、日本文化学部、教育福祉学部、看護学部、情報科学部

(研究科)

国際文化研究科、人間発達学研究科、看護学研究科、情報科学研究科

(全学教育研究組織)

入試・学生支援センター、教育支援センター、教養教育センター、

学術研究情報センター、地域連携センター、看護実践センター

・愛知県立芸術大学

(学部)

美術学部、音楽学部

(研究科)

美術研究科、音楽研究科

(全学教育研究組織)

芸術教育・学生支援センター、芸術創造センター、芸術情報センター、芸術資料館

⑥ 学生数 (平成25年5月1日現在)

・愛知県立大学 (新・旧)

学部学生 3,348名

大学院学生 225名

・愛知県立芸術大学

学部学生 830名

大学院学生 190名

⑦ 教職員数

(教員)

・愛知県立大学 213名

・愛知県立芸術大学 87名

(職員)

・法人事務局 178名

(2) 大学の基本的な目標等

① 愛知県立大学

愛知県立大学は、21年4月に愛知県立大学と愛知県立看護大学を統合するとともに、学部学科再編を行い、「豊かな人間性と高い知性を備え、かつ、国際性、創造性及び実践力に富む有為な人材を育成する」ことを目指した新しい愛知県立大学としてスタートした。教育研究基盤を強化した新しい中規模複合大学として、知の拠点を形成し、地域社会及び国際社会に貢献する人材の育成を目指して、教育・研究・地域連携を推進することとし、愛知県立大学の理念を次のとおりとする。

○ 愛知県立大学の理念

- 1 21世紀の「知識基盤社会」において、知的探究心を燃やす研究者と学生が相互に啓発し合いながら「知の拠点」を目指す。
- 2 「地方分権の時代」において期待の高まる公立大学として、良質の研究とこれに裏付けされた良質の教育を行い、その成果を地域社会と国際社会に還元する。
- 3 自然と人間の共生、科学技術と人間の共生、人間社会における様々な人々や文化の共生を含む「成熟した共生社会」の実現を目指して、教育研究と地域連携を進める。

② 愛知県立芸術大学

芸術は、太古から人間の暮らしに潤いを与え続け、常に人間の歴史とともにあった。人間は、芸術によって、自己を革新し、硬直する人間の思考を柔軟なものにしてきた。そして、優れた芸術は人間に知的な飛躍をもたらすものである。

愛知県立芸術大学は、独自の豊かな文化・芸術の伝統が育まれてきた愛知県に創設された「芸術の場」であり、当地域の芸術文化を育み、県内外に発信していくことが求められている。そのために本学は、開学以来培ってきた歴史を継承し、さらに発展させていく必要がある。

愛知県立芸術大学は、個性的で魅力ある大学として、また、愛知が生んだ芸術文化の拠点として、国際的にも開かれた芸術文化の核となることを目指し、大学の理念を次のとおりとする。

○ 愛知県立芸術大学の理念

- 1 学部から大学院までの一貫した教育研究体制をとることにより、芸術家、研究者、教育者など芸術文化に携わる優れた人材の育成を目指す。
- 2 広い視野を持った高度な芸術教育を通して、国際的な芸術文化の創造の核となることを目指す。
- 3 教育・産業・生活文化など様々な分野で本学の持つ芸術資源を有効に活用し、地域社会と連携して、芸術文化の発展に貢献することを目指す。

○ 法人の総括と課題及び特記事項

第2期中期計画初年度となる今年度は、中期計画88項目について取り組んだ結果、教育研究活動をはじめ2大学の管理運営全体について、順調に年度計画を実施した。なお、大項目ごとの特記事項は、以下のとおりである。

1 大学の教育研究等の質の向上

1-1 愛知県立大学

(1) 教育

- 入学者選抜
 - ・看護学部特別入試試験科目への英語導入（H27～）を決定
 - ・国際文化研究科国際文化専攻博士前期課程の募集人員見直し
 - ・学生主体のオープンキャンパスの実施
- 学部・大学院教育
 - ・教養教育センターの設置、教養教育新カリキュラムの策定
 - ・iCoToBa（多言語学習センター）の運用開始
 - ・外国語学部におけるコース制導入（H26～）の決定
 - ・グローバル人材育成推進事業の推進による協定校の拡大及び単位認定留学の拡大
 - ・情報科学部の新たな3コースの名称・新カリキュラムの策定
 - ・国際文化研究科国際文化専攻における高度専門職業人コース導入（H27～）の決定
- 学生への支援
 - ・ワンストップサービス体制等の実現に向けた学生支援課の一室化や学務課のレイアウト変更
 - ・留学前から留学後までの指導体制の強化や受入プログラムの整備など留学生派遣・受入態勢の整備
 - ・サテライトキャンパスにおける臨時相談員配置など、キャリア相談体制の強化
 - ・臨床心理士の増員によるカウンセリング対応時間の拡大

(2) 研究

- ・愛知県総合教育センター等との連携による研究を実施
- ・受託研究・共同研究の推進
- ・科学研究費補助金への申請を促進（78.2%→87.4%）

(3) 地域連携・貢献

- ・ESDパートナーシップ事業「はじめてのインドネシア講座」を実施
- ・愛知県「知の拠点」における「超早期診断技術開発プロジェクト」への参画
 - ・名古屋市立大学との連携による公開講座・特別展示の実施

1-2 愛知県立芸術大学

(1) 教育

- 入学者選抜
 - ・デザイン専攻以外の美術学部社会人特別入試の取りやめを決定
- 学部・大学院教育
 - ・チェンマイ大学及びエジンバラ芸術大学から留学生を受け入れ、学生交流を実施
 - ・アーティスト・イン・レジデンス事業を通じた専門・実技教育を実施
 - ・両学部・大学院の連携によるオペラ公演の実施
- 学生への支援
 - ・新音楽学部棟の供用開始（H25.9月～）
 - ・留学・国際交流事業に関する情報発信の強化、国際交流室の設置
 - ・個別就職相談の強化、キャリア支援室の設置
 - ・臨床心理士によるカウンセリング相談日の拡大

(2) 研究

- ・受託研究・共同研究の推進
- ・ハンブルグ音楽大学等への教員の派遣、同大でのレクチャーやコンサートの実施
- ・科学研究費補助金、その他助成金への申請を促進

(3) 地域連携・貢献

- ・あいちトリエンナーレ2013や瀬戸内国際芸術祭への参画
- ・栄サテライトギャラリーにて展覧会等を開催（入場者数H24:2,941人→H25:3,622人）
- ・文化財保存修復研究所設立に向けた検討

2 法人運営の改善

- ・理事長提示の年度方針に基づく各部重点施策の策定と運営
- ・年度計画に重点を置いた予算編成の推進
- ・事務の集中・集約化に向けた施設整備課の新設、組織改編案（H26.7月～）の策定
- ・法人固有職員への切り替えを促進（H24:50.9%→H25:56.2%）

3 財務内容の改善

- ・受託研究費や科学研究費補助金等を含めた外部資金の獲得

[単位：件／千円]

区分	年度	県立大学		芸術大学	
		件数	金額	件数	金額
奨学寄附金	24	9	5,550	9	6,700
	25	9	11,600	6	3,400
受託研究費	24	2	1,747	3	7,670
	25	1	210	4	6,666
共同研究費	24	8	7,256	0	0
	25	12	9,823	1	5,000
科学研究費 補助金等	24	91	105,760	8	8,840
	25	92	141,942	6	7,670
受託事業費等	24	1	500	8	3,682
	25	3	1,782	7	4,168
その他補助金	24	4	114,624	0	0
	25	4	86,441	0	0
計	24	115	235,437	28	26,892
	25	121	251,798	24	26,904

注1) 金額については、当該年度の実受入金額を記載。

注2) 金額については、千円未満を切り捨て。

注3) 科学研究費補助金等については、研究分担者分を除く。

- ・一般管理費比率の減少

	H24	H25
業務費	7,189,503 千円	6,812,729 千円
一般管理費	587,805 千円	528,794 千円
一般管理費比率	7.6%	7.2%

※一般管理費比率＝一般管理費／（業務費＋一般管理費）（特殊要因除く）

4 自己点検・評価及び情報の提供

- ・学外委員による教養教育外部評価の実施（県立大学）
- ・「創立50周年記念事業委員会」を設置し、記念事業の企画内容等を検討（芸術大学）

5 その他業務運営

- ・芸術大学施設整備に関する県への積極的な働きかけ
- ・県立大学野球場の地域への開放を決定

項目別の状況

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 愛知県立大学

(1) 教育に関する目標

中期目標	<p>ア 入学者選抜 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、地域社会や国際社会において活躍する資質を備えた質の高い入学者を確保する。</p> <p>イ 学部教育 (ア) 教養教育においては、自ら課題を探究し、広い視野で柔軟かつ総合的に判断し解決することのできる能力や、他者の文化を理解・尊重し、コミュニケーションをとることのできる能力、語学力など、グローバル化や情報化等に適応しうる「学士力」の基礎を涵養する。 (イ) 専門教育においては、時代や社会の要請に的確に対応し、各学部・学科の人材養成の方針に沿って、カリキュラム等を含めた教育体制の個性化や、教育内容の最新化・体系化を図ることにより、それぞれの専門分野における知識・スキルや創造的思考力を備えた人材を育成する。 (ウ) 自己点検・評価、学生評価、外部評価等に基づくファカルティ・ディベロップメントを通じて、教員の教育力の向上を図る。 (エ) 学生の主体的・積極的な学びを促し、学修力の向上を図る。</p> <p>ウ 大学院教育 各研究科の養成する人材像を明確にし、その特性を踏まえた教育内容・方法の充実に取り組み、高度専門職業人や研究者等、知識基盤社会の中核となる人材を育成する。</p> <p>エ 卒業認定 卒業生と修了生の質を保証するため、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）を、時代や社会の変化に対応して適切に見直し、適正な成績評価基準により卒業認定を行う。</p> <p>オ 学生への支援 学生の学習環境の整備や、地域貢献活動・国際交流、キャリア形成、健康管理、経済的な支援などを通じて、学生の学ぶ意欲を高めるとともに、安心して修学を継続できるようにする。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
ア 入学者選抜		「年度計画を十分に実施している」	
1 アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）について、時代や社会の変化に対応するよう、適切に見直す。	・各学部・研究科がアドミッション・ポリシーを必要に応じて見直し、結果をホームページで広報する。	・学部については、高校生にわかりやすい簡潔な表現に見直し、ホームページで広報した。研究科については、現時点での見直しは必要なしとの結論に至ったため、現行のアドミッション・ポリシーをホームページで広報した。	
2 出願状況や入試結果の分析を通じて入学者選抜方法の見直しを行うことによって、質の高い入学者を確保する。	・出願状況や入試結果の分析を通じて、入学者選抜方法の見直しを行う。	「年度計画を十分に実施している」 ・出願状況や入試結果の分析を通じて、27年度入試から、看護学部特別入試（社会人・帰国生徒・外国人留学生）の試験科目に英語を導入することとした。また、国際文化研究科国際文化専攻博士前期課程の募集人員を見直した。	
3 目的意識や学習意欲の高い学生を確保するため、各種メディアの活用など戦略的な入試広報計画を策定し実施する。	・入試広報の充実に図るために、各種メディアを活用しつつ、戦略的な入試広報計画を検討し策定する。	「年度計画を十分に実施している」 ・朝日新聞との大学ランキングタイアップ企画や地下鉄等の交通広告などを活用し、より効果的なメディア広報に努めた。また、オープンキャンパスを学生主体で実施し、参加者からの高い評価を得た。広報委員会において、次年度の具体的な入試広報計画を策定した。	

		区分	23年度 (24年度入試)	24年度 (25年度入試)	25年度 (26年度入試)
		オープンキャンパス	3,579名	3,953名	3,813名
		高校からの大学見学	32回 1,508名	39件 1,623名	26件 1,321名
		高校への出張ガイダンス・ 模擬授業等	39回 1,472名	70件 3,019名	37件 1,390名
		学外での進学ガイダンスへの参加	22回 773名	24件 1,143名	20件 1,093名
		名市大との合同説明会 【新規】	—	—	52名
		大学祭中の個別入試相談会	—	28名	62名
		入学志願者合計 (大学院含む)	2,993名	3,294名	3,197名
		(うち一般入試前期日程)	(1,976名)	(2,085名)	(1,953名)
イ 学部教育 4 教養教育センター（学士力を涵養することを目的とし、外国語科目、教養科目、キャリア科目、スポーツ科目等を企画運営する）を設置して責任体制を構築し、教養教育に関する企画・運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育センターを設置し、教養教育に関する責任体制を構築する。 ・平成26年度実施に向けて、教養教育のカリキュラムを検討し、確定する。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育に関する企画・運営を行うための教養教育センターを設置した。 ・教養教育準備委員会、各学部教授会、教育研究審議会等の審議を経て、26年度からの新たな教養教育カリキュラム[参考資料1]を確定した。新カリキュラムの策定にあたっては、常勤教員の担当授業増加（30%→54%）、ネイティブ教員による「英語」授業増加（15%→61%）、多文化共生にかかる科目の充実（「日本と異文化の交流」「Japan Seen from Outside」の新設等）など、グローバル人材育成に向け、抜本的な見直しを行った。 ・学内での丁寧な議論を積み重ねる中、「良質の研究に基づく良質の教養教育」に全学を挙げて取り組む意識を醸成し、全ての常勤教員が主体的に参画することで、専門教育へのより円滑な接続を実現するカリキュラムを策定した。なお、この取組は、外部評価において高く評価された。 [参考資料3] ・新カリキュラムの内容を広くPRするため、朝日新聞の広告特集記事への掲載を決定した。 			

<p>5 グローバル人材育成の基盤として、ネイティブ教員の増員、外国語のみ使用可能な交流スペースの設置・活用などにより、全学部学生の英語力を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流スペースの iCoToBa（多言語学習センター）を設置し、その運用を開始する。 ネイティブ教員による授業機会の増加について検討する。 留学支援科目を充実させる。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ネイティブ教員6名・コーディネーター2名を採用し、4月から iCoToBa の運用を開始した。週 70 コマのレベル別・目的別の iCoToBa 科目の開講、語学・留学支援、異文化交流イベント等を行った。 <p>【iCoToBa 利用者数】</p> <table border="1" data-bbox="1083 367 1884 504"> <thead> <tr> <th></th> <th>延べ人数</th> <th>1日平均 (8,9、2,3月除く)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>5,906人</td> <td>35人/日</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 教養英語におけるネイティブ教員担当クラスを増加させるため、26年度からの英語ネイティブ教員4名の採用を決定した。 留学前・留学中指導及び留学後の報告会等の科目を含む「グローバル人材育成推進プログラム」31科目[参考資料2]を決定し、周知した。 		延べ人数	1日平均 (8,9、2,3月除く)	H25	5,906人	35人/日													
	延べ人数	1日平均 (8,9、2,3月除く)																			
H25	5,906人	35人/日																			
<p>6 多文化共生社会等を実現するために必要な教養を涵養する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生社会等を実現するために必要な教養科目について検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Japan Seen from Outside」等の新たな教養科目を設置し、26年度から新カリキュラムを実施することとした。 <p>[参考資料1]</p>																			
<p>7 学生のキャリア形成支援を強化するための科目を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャリア形成支援科目を充実させる。 インターンシップの機会を拡充する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育科目として、キャリア・スキル科目を充実させ、26年度から開講することとした。 <table border="1" data-bbox="1083 1081 1973 1270"> <tbody> <tr> <td>キャリア・スキル科目</td> <td colspan="2">「情報リテラシーA」「情報リテラシーB」「高度情報社会の理解」「キャリアのための統計入門」「日本語表現法」</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成支援科目</td> <td colspan="2">「人生設計とキャリア」「男女共同参画とライフコース」「キャリア実践」「インターンシップ」</td> </tr> </tbody> </table> <p>[参考資料1]</p> <ul style="list-style-type: none"> 東海地域インターンシップ推進協議会への参加によるマッチングや企業訪問などによるインターンシップ先の開拓、愛知県地域振興部国際課による留学生インターンシップへの参加（1名）等積極的に機会を拡充した。また、グローバル人材育成プログラムにおいてインターンシップを必修科目と位置づけた。 <table border="1" data-bbox="1083 1533 1884 1722"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インターンシップ履修登録者数</td> <td>66名</td> <td>87名</td> </tr> <tr> <td>インターンシップ参加者数※</td> <td>15名</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td>単位修得者数</td> <td>10名</td> <td>6名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※履修登録した上で参加した数</p>	キャリア・スキル科目	「情報リテラシーA」「情報リテラシーB」「高度情報社会の理解」「キャリアのための統計入門」「日本語表現法」		キャリア形成支援科目	「人生設計とキャリア」「男女共同参画とライフコース」「キャリア実践」「インターンシップ」			H24	H25	インターンシップ履修登録者数	66名	87名	インターンシップ参加者数※	15名	22名	単位修得者数	10名	6名	
キャリア・スキル科目	「情報リテラシーA」「情報リテラシーB」「高度情報社会の理解」「キャリアのための統計入門」「日本語表現法」																				
キャリア形成支援科目	「人生設計とキャリア」「男女共同参画とライフコース」「キャリア実践」「インターンシップ」																				
	H24	H25																			
インターンシップ履修登録者数	66名	87名																			
インターンシップ参加者数※	15名	22名																			
単位修得者数	10名	6名																			
<p>・各学部・学科の人材養成の方針とカリキュラム・ポリシー</p>																					

<p>(教育課程編成・実施の方針) に沿って、カリキュラムを含む教育体制の個性化や教育内容の最新化・体系化を図る。</p> <p>8 【外国語学部】 学生のニーズに応じるために、専攻言語における実践的で高度な運用能力を身につけさせるコース、多様で急激に変化する国際社会に対応できる高度な専門知識を修得させるコースを設ける。また、主体的に行動し判断できる、国際社会や地域社会に貢献するグローバル人材を育成するために、留学制度を積極的に活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度に向けて専攻言語の高度運用能力およびコース制の導入による専門教育の強化を目的としたカリキュラムを検討する。 「グローバル人材育成推進事業」を本格実施し、海外協定校調査および「単位認定」留学の拡大を進める。 TOEIC 検定を実施してベースラインデータを得た上で、英語教育 FD を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 専攻言語の高度運用能力の向上およびコース制の導入による専門教育の強化を目的とした新カリキュラムを確定し、26 年度より実施することとした。 積極的な協定校調査・交渉等の結果、新たに 11 大学と協定を締結した。25 年度「単位認定」留学者は 93 名 (H24: 34 名) に増加した。留学を含めて 4 年での卒業を促進するため、26 年度から「海外協定大学修得科目」を 20 単位に拡大することとした。 <p style="text-align: right;">[データ集 10]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の英語力把握を目的に外国語学部全学年 1,697 名を対象に TOEIC を実施し、その結果分析のため、1 月に英語教育 FD を開催した。スコアの伸び率の低い学科の対応策として、iCoToBa 等の利用促進について検討した。 																						
<p>9 (指標) 英米学科卒業生の 7 割が TOEIC800 点の目標をグローバル人材育成推進事業の最終年度において達成することを目指す。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 25 年度英米学科卒業生の 38.5% が TOEIC800 点以上の目標を達成した (24 年度達成率 20.3%)。 <p>【スコア分布】</p> <table border="1" data-bbox="1136 1129 1762 1455"> <thead> <tr> <th>スコア</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>800 点以上</td> <td>45 人</td> <td>38.5%</td> </tr> <tr> <td>750～799 点</td> <td>11 人</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>700～749 点</td> <td>12 人</td> <td>10.3%</td> </tr> <tr> <td>650～699 点</td> <td>21 人</td> <td>17.9%</td> </tr> <tr> <td>649 点以下</td> <td>28 人</td> <td>23.9%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>117 人</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	スコア	人数	割合	800 点以上	45 人	38.5%	750～799 点	11 人	9.4%	700～749 点	12 人	10.3%	650～699 点	21 人	17.9%	649 点以下	28 人	23.9%	計	117 人	100%	
スコア	人数	割合																						
800 点以上	45 人	38.5%																						
750～799 点	11 人	9.4%																						
700～749 点	12 人	10.3%																						
650～699 点	21 人	17.9%																						
649 点以下	28 人	23.9%																						
計	117 人	100%																						
<p>10 【日本文化学部】 磨かれた言葉の論理と歴史認識を力として、世界的視野から地域貢献できる知的創造力を持った人材の育成を目標に、国語国文・歴史文化両学科にまたがる地域文化・日本文化を軸とした自文化理解・異文化理解の教育・研究体制を構築する。そのために、専門教育・教養教育領</p>	<ul style="list-style-type: none"> 副専攻制ないし地域学(愛知講座)教育プログラム(仮称)の導入のために、関連するカリキュラム制度に関する検討を行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム導入に向け、国語国文・歴史文化両学科にまたがる学部共通科目の充実を図り、新設科目として、地域住民と共に学ぶ公開講座を授業に組み込んだ「日本文化特別研究」を設置した。 																						

<p>域へ副専攻制（所属学科以外の専門科目を履修できる制度）や地域学プログラム（仮称）の導入を前向きに検討し、第二期中期計画中の実現を目指す。</p>															
<p>11 【教育福祉学部】 カリキュラムにおける教育発達学科及び社会福祉学科相互の乗り入れを増やすなど、教育と社会福祉の両分野の連携を強化するなかで、人間の生涯にわたる発達を支援し、誰もが尊厳ある生活を送ることができる社会の創造に貢献する専門職を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「教育福祉学部の授業を考える学生懇談会」を各学年、各学科2名ずつ、計16名で組織し、カリキュラムや授業に関するニーズ調査データをもとに、授業改善に取り組む。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 両学科1年生を混成する授業の有効性について、24年度のニーズ調査、25年度の試行結果や学生懇談会での意見を踏まえ検討し、26年度から「教育福祉学基礎論」を混成で実施することを決定した。 													
<p>12 【看護学部】 「学生の看護実践能力を高めるために、臨床判断に基づく看護技術教育を強化する。」ことを目指し、保健師養成への選択制の導入をはじめとする、学生の希望に即した専門領域をより深く学べるカリキュラムを設定し、新設の導入教育や選択科目の教授内容の充実を図ることにより、他大学との個別化を実現させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度から導入したカリキュラムの、特に、新設科目についての準備と評価を平成25年度以降順次行い、内容の充実を図る。 保健師養成に関しては、平成27年度の完成年次に至る過程の評価をふまえ、研究科への移行について、研究科とともに検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「看護学習法入門」などの新設科目については、学生からの個別レポートや授業評価等により概ね高い評価を得たため、引き続き実施するとともに、授業外での学習を促進する方策としてポータルサイトを活用するなど、適宜内容の充実を図った。「看護の統合と実践」分野の科目については、全領域の教員で構成される委員会において、評価や課題検討を行い、改善のうえ実施した。 保健師選択制実施による受講生選抜のためのプロジェクトチームでの検討を踏まえ、初年度の選抜を実施した。その結果を踏まえ、次年度以降の選抜方法を決定した。 保健師養成の研究科への移行に関しては、大分県立看護科学大学等他大学への視察などにより情報収集を行った。 													
<p>13 （指標）看護師国家試験の合格率について、毎年度大学新卒者の全国水準を上回ることを目指す。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師国家試験合格率 H25 全国大学新卒者 96.9% < H25 本学新卒者 97.8% <table border="1" data-bbox="1199 1629 1905 1814"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合格者数/卒業者数</td> <td>87/89名</td> <td>90/92名</td> </tr> <tr> <td>本学新卒者合格率</td> <td>97.8%</td> <td>97.8%</td> </tr> <tr> <td>全国大学新卒者合格率</td> <td>96.0%</td> <td>96.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">[データ集4]</p>		H24	H25	合格者数/卒業者数	87/89名	90/92名	本学新卒者合格率	97.8%	97.8%	全国大学新卒者合格率	96.0%	96.9%	
	H24	H25													
合格者数/卒業者数	87/89名	90/92名													
本学新卒者合格率	97.8%	97.8%													
全国大学新卒者合格率	96.0%	96.9%													

<p>14 【情報科学部】</p> <p>新たな情報の科学と技術に対応できる能力を有し、今後の情報化社会をリードできる情報技術者を養成するために、コンピュータ技術、メディア・制御技術、シミュレーション技術を主専攻とするコース分けと、コースごとのカリキュラムを検討する。また、高度な ITS とロボティクス研究を融合した研究拠点の構築及び愛知県における企業のイノベーション（改革）に向けて産業界に貢献できる工学的人材養成について、前向きに検討し、第二期中期計画中的実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな情報技術に対応できる人材養成に向けて、3コースの名称とそのカリキュラム（プログラミング科目、数学科目など）を検討し、H26年度からの新カリキュラムを作成する。 ・高度な ITS とロボティクス研究を融合した研究拠点の構築について検討する。 ・情報科学を基礎とする工学的人材養成について検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム検討委員会を4回開催し、3コースの新名称（情報システムコース、メディア・ロボティクスコース、シミュレーション科学コース）、科目名、担当者等のカリキュラムを策定した。 ・モビリティ・ロボット研究所（仮称）の設立を想定して、近隣自動車メーカーの助言を得ながら研究テーマ、連携方法について検討した。あわせて、文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」拠点の一つである名古屋大学の研究プログラム（ITS 関連）に参画することを決定した。 ・毎月定例の学部主任会において議論・検討の結果、学部の将来計画委員会の設置を決定した。 					
<p>15 ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動（教員による授業内容・方法の改善・向上のための組織的な取り組み）は、全学単位では教育支援センター（教育の運営と調整）が、各学部については学部単位で、毎年実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育カリキュラムについて外部評価を受け、その結果をカリキュラムに反映する。 ・全学合同の FD 研修会を開催し、授業アンケート等の分析に基づいて、教育改善に役立てる。 ・学生のニーズに基づき、各学部が FD 研修会を開催する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年度から実施予定の新教養教育カリキュラムについて、外部評価を受け、その結果を「地域に学ぶ」「県大エッセンシャル」「音楽の世界」「美術の世界」「情報科学のものづくり」などの科目に反映させた。 <table border="1" data-bbox="1077 1171 1857 1360"> <tr> <td style="text-align: center;">外部評価委員</td> </tr> <tr> <td>京都府立大学副学長・教務部長・教養教育センター長</td> </tr> <tr> <td>山口県立大学共通教育機構長</td> </tr> <tr> <td>福井県立大学学術教養センター長</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">[参考資料3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学 FD 研修会のテーマを「成績評価について」とし、「GPA 制度について」「本学の成績評価の現状と課題について」の2件の発表を通して情報共有、意見交換を行った。その結果、より適切な GPA 制度運用と履修登録の厳格化のため、履修取消方法などを見直すこととした。 ・授業アンケートに基づき、成績評価のあり方について、各学部単位で意見交換を行った。また、学生の生の声を聞くために、各学部で教養教育をテーマとした「県大白熱教室」を開催し、今後の授業改善に役立てることとした。 	外部評価委員	京都府立大学副学長・教務部長・教養教育センター長	山口県立大学共通教育機構長	福井県立大学学術教養センター長	
外部評価委員							
京都府立大学副学長・教務部長・教養教育センター長							
山口県立大学共通教育機構長							
福井県立大学学術教養センター長							

<p>16 FD活動を有効なものにするために、自己点検・評価、学生評価、外部評価等のあり方に関する検証を踏まえて実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価を、その検証結果を踏まえて実施する。 授業評価を、その検証結果を踏まえて実施する。 授業アンケートの質問内容と実施方法を再検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの自己点検・評価に関する課題を検討した結果、実施時期を見直すこととした。 24年度の3,4年次専門科目に引き続き、25年度は、1,2年次専門科目を対象に実施した。 比較可能性の観点から、同様の質問内容を設定することとした。また、実施時期や回収方法を工夫した。 	
<p>17 予習・復習等の自主学習がより一層容易になる様にシラバスを工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援センターが、予習・復習等の自主学習がより一層容易になるようにシラバスを検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学教務委員会の議論を経て、シラバスに「授業時間外の学習（予習・復習）」を追加することを決定した。 	
<p>18 学生自主企画などを通じて学生に主体的・自主的な学習機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生自主企画研究を募集し、学生の主体的・自主的な学習を支援する。 学生自主企画研究のあり方について検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生自主企画研究の募集に対して14件の応募があり、11件（1件あたり30万円）採択した。研究開始にあたっての説明会、研究スキルアップ講座、中間・最終発表会を開催し、研究に対する助言等を行うことで、学生の主体的・自主的な学習を支援した。 募集方法について検討した結果、学生へ広く周知するための事前説明会を新たに開催することとした。また、愛知県山村振興室と連携した新たな研究テーマを設定することを決定した。 	
<p>19 学習時間の増加と学習の質の高度化を促す方策について検討し、それを実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の増加と質向上を促す方策について検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生便覧の「単位修得と学習時間」欄や、シラバスへの新規項目（「授業時間外の学習（予習・復習）」）の追加により、授業時間外の学習時間の必要性について明記した。 	
<p>ウ 大学院教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研究科の人材養成の方針とカリキュラム・ポリシーに沿って、カリキュラムを含む教育・指導体制を充実する。 <p>20 【国際文化研究科】</p> <p>国際文化専攻博士前期課程では、語学力の高度運用能力を通じて地域に貢献する高度専門職業人と、国際社会および地域社会にかかわる言語文化、社会文化の諸問題をグローバルな観点から考察する研究者、専門家を育成するための教育体制を整備する。</p> <p>日本文化専攻博士前期課</p>	<p>〈国際文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 博士前期課程においては、平成26年度に向けて高度専門職業人コースと社会言語文化コース（仮称）の導入を検討し、新カリキュラムの授業科目および研究指導方法を具体化する。 博士前期課程、後期課程とも、研究指導において集团的指導体制を維持しつつ、その研究経過および研究結果の報告会を年1回開催する。 <p>〈日本文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 博士前期課程において、国際文化専攻 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>〈国際文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 検討の結果、27年度から既存専攻に高度専門職業人（翻訳・通訳）コースを追加導入することとした。 論文指導において正副による集团的指導体制を維持し、10月に前期・後期課程院生の中間研究発表会、2月に大学院FD研究会を開催した。 <p>〈日本文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際文化専攻のコース制の導入に対応すべく、新たな教育研究の連携に 	

<p>程では、国際的視野に立って自文化を深く精緻に捉え、今日的な社会・文化の諸問題解決に貢献できる専門的人材を養成するための教育体制を整備する。</p> <p>博士後期課程においては、前期課程で培った精緻な専門的知識と問題解決能力を、より高次元で発揮できる専門的教育者・研究者、指導的組織者を養成するための教育体制を整備する。</p>	<p>に導入予定の社会文化言語コース(仮称)の教育研究との連携を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化専攻におけるコース制導入に対応した教育研究指導體制、担当方法を検討する。 ・博士前期課程、後期課程とも、研究指導における主副指導教員の連携強化に向けて、専攻として自己点検事項のあり方を検討する。 	<p>について検討することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化専攻との連携を図るため、教員や国際文化専攻の学生が積極的に参加できる「院生発表会」を立ち上げた。 ・院生主体の「院生発表会」に教員が積極的に参加し、院生の研究進捗状況を把握・共有することにより、主・副指導教員の連携強化を図った。 	
<p>21 【人間発達学研究科】</p> <p>博士前期課程では、人間の一生を通じての発達と尊厳ある生き方を地域社会において支えることのできる教育・保育と社会福祉に関わる高度専門職業人を育成するための教育体制を整備する。</p> <p>博士後期課程では、「人間の発達と尊厳」の問題を解明する人間発達学の創造と、発達保障の高度な専門家・研究者の育成をめざすための教育体制を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の31名体制から平成26年度初めまでに3名の教員が定員削減される中で、博士前期課程の教育レベルを維持・充実させるためのカリキュラム改革を検討する。 ・博士後期課程は完成年度を迎えるので、担当教員の資格を確定し、平成26年度より、現行の9名から1名でも増員した体制を準備する。 ・前期課程及び後期課程の院生の研究テーマ発表会ならびに研究経過報告会(中間発表会)をそれぞれ年1回開催する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規教員の採用基準を引き上げるとともに、カリキュラム開講の組み合わせ・内容などを工夫し、科目数を維持することで、教育レベルの充実を図った。 ・博士後期課程の研究指導担当教員資格審査基準を確定し、同基準に基づいて教員2名を主指導教員として増員することにより、研究指導體制の充実を図った。 ・研究テーマ発表会(5月)、研究経過報告会(中間発表会)(11月)、修士論文口述審査(公開)(2月)を実施した。 	
<p>22 【看護学研究科】</p> <p>博士前期課程では、看護学の専門的知識の探求および高度な実践力の学修により看護実践の質向上に寄与する人材を養成するため教育体制の充実を図る。</p> <p>博士後期課程では、看護学基礎研究・応用研究を自律的に遂行し研究成果をとおして広く社会に貢献できる人材を養成するための教育体制の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度改編カリキュラムの完成年次に向けて、新設科目の内容の充実を図る。 ・専門看護師コースにおいては、平成26年度からの新カリキュラム開始に向けて、平成25年に新カリキュラムの承認申請を行い、38単位による、より専門性の高い人材育成の充実を図る。 ・博士前期課程、後期課程とも、従来よ 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイメンズヘルス・助産学に平成24年度に新設された「ハイリスク助産管理論」、「産褥期助産論」、「継続事例実習」、「ハイリスク助産管理実習」及び「継続事例実習」に関する担当教員間での評価は良好であったが、平成25年度担当者の一部変更に伴い、担当者間の検討を十分に行った上で、引き続き実施した。 ・専門看護師コース(がん・老年・精神・家族)について、26年度からのより専門性が高い新カリキュラムへの移行(26単位から38単位への移行)申請を行い、日本看護系大学協議会から認定された。 ・研究計画発表会及び研究計画審査並びに倫理審査において、より多くの 	

<p>また、専門看護師の実践力向上のため、実習教育スペースの拡充などを検討する。</p>	<p>り実施している研究計画発表会や研究計画審査、副指導教員制などの複数指導体制について、集团的・組織的視点から検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習教育スペースの拡充の必要性及び具体策について検討する。 	<p>教員が配置される体制を整えた。主・副指導体制については、より有効なものとなるよう検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年度後期からの供用開始に向けて、25年度中に実習教育スペース拡充の仕様を確定した。 	
<p>23 〔情報科学研究科〕</p> <p>博士前期課程では、情報科学に関する先端的な専門知識および技術を習得し、先端的な情報システムを構築できる高度情報システム技術者を養成するための教育体制を整備する。</p> <p>博士後期課程では、新たな情報技術の創造や実践的研究を行うことができる先端的な高度情報システム技術者および研究者を養成するための教育体制を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報システム技術者の養成に向けて、学部と博士前期課程との一貫した教育の在り方を検討する。 ・博士前期課程、後期課程とも、研究指導の強化に向けて、複数の研究室による合同研究発表会を含む合同指導などの教育体制を検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会において、現行及び新カリキュラムの学部専門科目と博士前期課程専門科目の一貫性について確認した。 ・25年度の新規採用教員については複数の研究室による合同指導を試行した。専攻所属の全ての研究室が集まる中間発表会では、合同指導の観点から、複数教員により多面的に研究の進捗確認・指導を行った。 	
<p>エ 卒業・修了認定</p> <p>24 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）について、時代や社会の変化に対応するよう、適切に見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部・研究科が、ディプロマ・ポリシーを見直し、必要に応じて修正し、ホームページで広報する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学部・研究科でディプロマ・ポリシーの見直しを実施し、ホームページにて公開した。なお、2学部（外国語学部・情報科学部）、1研究科（看護学研究科）のディプロマ・ポリシーを修正した。 	
<p>オ 学生への支援</p> <p>25 授業等に必要な教育機器等を更新・整備するなど、学生の学習環境の整備を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各年度において授業等に必要な機器を更新・整備する。 ・学生生活委員会において今年度の重点項目を検討、決定した上で、学生アンケートを実施する。 ・図書館では学生の主体的な学びにつなげるために学習支援を進め、各種講座の充実と拡大、レファレンスの強化を図る。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設等の修繕、演習室から講義室への変更、AV機器更新などを行い、学習環境を整備した。 ・ワンストップサービス体制など学生がより利用しやすい窓口を実現するため、学生支援課の一室化や学務課のレイアウト変更などの改修を実施した。 ・学生生活委員会において、今年度の重点項目を就職支援とすることに決定し、学生生活アンケートを実施した。 ・5 大学共同図書環事業[参考資料4]における「選書ツアー」や芥川賞作家による講演会、貴重書展示・講演会「尾張・三河の俳人たち」、学生図書館ボランティアによるビブリオバトル（※）等の企画を実施した。その他、学生の主体的な学びにつなげるための学習支援やレファレンスの強化策として、以下の取組を実施した。 <p>（※）複数の発表者がお薦めの本を持ち寄って紹介した後、参加者を交</p>	

		<p>えたディスカッションを通して、参加者投票による1位の本を決定する書評ゲーム。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>H24実績</th> <th>H25実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館オリエンテーション</td> <td>44回(長久手) 3回(守山)</td> <td>36回(長久手) 3回(守山)</td> </tr> <tr> <td>情報探索講座(初級・上級)</td> <td>45回(長久手) 5回(守山)</td> <td>54回(長久手) 3回(守山)</td> </tr> <tr> <td>各種館内展示</td> <td>10回(長久手) 1回(守山)</td> <td>10回(長久手) 2回(守山)</td> </tr> </tbody> </table>	内容	H24実績	H25実績	図書館オリエンテーション	44回(長久手) 3回(守山)	36回(長久手) 3回(守山)	情報探索講座(初級・上級)	45回(長久手) 5回(守山)	54回(長久手) 3回(守山)	各種館内展示	10回(長久手) 1回(守山)	10回(長久手) 2回(守山)	
内容	H24実績	H25実績													
図書館オリエンテーション	44回(長久手) 3回(守山)	36回(長久手) 3回(守山)													
情報探索講座(初級・上級)	45回(長久手) 5回(守山)	54回(長久手) 3回(守山)													
各種館内展示	10回(長久手) 1回(守山)	10回(長久手) 2回(守山)													
<p>26 学生自主企画やボランティア活動の支援を通じて、学生の地域貢献活動を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生自主企画を通じて、学生の地域貢献活動を支援する。 学生のボランティア活動を通じて、学生の地域貢献活動を支援する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生自主企画研究として「リニモ沿線地域子育て支援に関する調査及びマップ作成」などを採択し、学生の地域貢献活動を支援した。26年度より、愛知県山村振興室と連携したテーマ枠を新たに設け、研究課題を募集することとした。 東北大震災復興支援のための学生ボランティアの派遣(8~9月、計27名)や、小・中学校へのスクールボランティアの派遣(計62名)などを実施した。また、学生が主体的にボランティア紹介を行うボランティアステーションを5月に設立し、20件の紹介が行われた。 													
<p>27 グローバル人材育成推進事業を通じて、学术交流協定に基づいた留学生の派遣・受け入れを促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際学术交流協定に基づく留学生の派遣・受け入れ態勢を整備する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 派遣態勢の整備として、留学促進のためのイベント等を開催した。また、留学前指導として危機管理セミナーの開催やeポートフォリオ(※)「manaba」を利用した留学指導等を実施した。受入態勢の整備としては、留学生用英文パンフレット等の作成、協定大学留学生受入プログラムの整備、留学ハンドブックの作成、国際交流室でのカウンセリング体制の整備などを行った。 (※) 学習などの記録をサーバー上で保存・蓄積しながら、自らの学びを振り返るとともに、教員や仲間との意見交換や、学習成果の公表など、自らの学習や能力の証明とする場。 													

<p>28 社会や学生（留学生を含む）のニーズに応じた講座を開講するなど、キャリア形成支援体制を強化する。</p>	<p>・キャリア支援室によって社会や学生のニーズに応じた就職ガイダンスを実施する。また、サテライトキャンパスにおけるキャリア形成支援を継続的に実施する。</p>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイダンスについて、学生アンケートや昨年度受講状況を踏まえ、ニーズの高い内容を精選した。 ・サテライトキャンパスにおいて、グローバル人材育成推進室との協働による「TOEIC 講座&キャリア研修」など新たなセミナーを実施した。また、臨時相談員を配置するなど相談体制を強化し、面談件数が増加した。 <p style="text-align: right;">[データ集3]</p> <table border="1" data-bbox="1071 457 1979 1056"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キャリア支援室面談件数</td> <td>1,928 件</td> <td>2,182 件</td> </tr> <tr> <td>うちサテライトキャンパス</td> <td>334 件</td> <td>817 件</td> </tr> <tr> <td>就職ガイダンス実施件数</td> <td>21 回</td> <td>19 回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>4,471 名</td> <td>3,985 名</td> </tr> <tr> <td>TOEIC 講座&キャリア研修【新規】 (サテライト)</td> <td>—</td> <td>6 回 (74 名)</td> </tr> <tr> <td>キャリアジャパニーズ講座【新規】</td> <td>—</td> <td>5 回 (9 名)</td> </tr> <tr> <td>合同企業説明会参加企業数</td> <td>96 社</td> <td>97 社</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>534 名</td> <td>537 名</td> </tr> <tr> <td>インターンシップガイダンス</td> <td>3 回</td> <td>4 回</td> </tr> <tr> <td>学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数) (全国平均 (文科省・厚労省共同調査))</td> <td>96.4% (93.9%)</td> <td>96.6% (94.4%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・グローバル人材育成も視野に入れたワンストップサービス体制を整備するため、学生支援課を一室化し、国際交流・キャリア支援の連携を強化した。</p>		H24	H25	キャリア支援室面談件数	1,928 件	2,182 件	うちサテライトキャンパス	334 件	817 件	就職ガイダンス実施件数	21 回	19 回	参加人数	4,471 名	3,985 名	TOEIC 講座&キャリア研修【新規】 (サテライト)	—	6 回 (74 名)	キャリアジャパニーズ講座【新規】	—	5 回 (9 名)	合同企業説明会参加企業数	96 社	97 社	参加人数	534 名	537 名	インターンシップガイダンス	3 回	4 回	学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数) (全国平均 (文科省・厚労省共同調査))	96.4% (93.9%)	96.6% (94.4%)	
	H24	H25																																		
キャリア支援室面談件数	1,928 件	2,182 件																																		
うちサテライトキャンパス	334 件	817 件																																		
就職ガイダンス実施件数	21 回	19 回																																		
参加人数	4,471 名	3,985 名																																		
TOEIC 講座&キャリア研修【新規】 (サテライト)	—	6 回 (74 名)																																		
キャリアジャパニーズ講座【新規】	—	5 回 (9 名)																																		
合同企業説明会参加企業数	96 社	97 社																																		
参加人数	534 名	537 名																																		
インターンシップガイダンス	3 回	4 回																																		
学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数) (全国平均 (文科省・厚労省共同調査))	96.4% (93.9%)	96.6% (94.4%)																																		

<p>29 学生の健康管理として、定期健康診断や学生相談員等による各種相談を実施する。</p>	<p>・定期健康診断、学生相談等の各種相談を実施する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・定期健康診断を実施するとともに、校医によるメンタルヘルス相談、ハラスメント相談等のほか、以下のとおり学生相談を実施した。また、相談件数の増加に対応するため、12月から臨床心理士1名を増員し、対応時間を拡大した。</p> <p>(長久手キャンパス)</p> <table border="1" data-bbox="1071 422 1985 741"> <thead> <tr> <th colspan="2">学生相談等内容</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生相談員による学生相談</td> <td>随時</td> <td>214回</td> <td>163回</td> </tr> <tr> <td>保健師による学生相談</td> <td>随時</td> <td>505回</td> <td>595回</td> </tr> <tr> <td>臨床心理士による カウンセリング</td> <td>火木 (H25.12~) 火水木金 各4時間</td> <td>延べ156回 (実人数27名、 73回)</td> <td>延べ216回 (実人数40名、 90回)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(守山キャンパス)</p> <table border="1" data-bbox="1071 842 1985 1066"> <thead> <tr> <th colspan="2">学生相談等内容</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生相談員による学生相談</td> <td>随時</td> <td>6回</td> <td>29回</td> </tr> <tr> <td>臨床心理士による カウンセリング</td> <td>毎週火曜日 4時間</td> <td>延べ35回 (実人数17名、 39回)</td> <td>延べ52回 (実人数15名、 40回)</td> </tr> </tbody> </table>	学生相談等内容		H24	H25	学生相談員による学生相談	随時	214回	163回	保健師による学生相談	随時	505回	595回	臨床心理士による カウンセリング	火木 (H25.12~) 火水木金 各4時間	延べ156回 (実人数27名、 73回)	延べ216回 (実人数40名、 90回)	学生相談等内容		H24	H25	学生相談員による学生相談	随時	6回	29回	臨床心理士による カウンセリング	毎週火曜日 4時間	延べ35回 (実人数17名、 39回)	延べ52回 (実人数15名、 40回)	
学生相談等内容		H24	H25																												
学生相談員による学生相談	随時	214回	163回																												
保健師による学生相談	随時	505回	595回																												
臨床心理士による カウンセリング	火木 (H25.12~) 火水木金 各4時間	延べ156回 (実人数27名、 73回)	延べ216回 (実人数40名、 90回)																												
学生相談等内容		H24	H25																												
学生相談員による学生相談	随時	6回	29回																												
臨床心理士による カウンセリング	毎週火曜日 4時間	延べ35回 (実人数17名、 39回)	延べ52回 (実人数15名、 40回)																												
<p>30 成績優秀者奨学制度に基づく経済的支援を継続的に実施し、就学のための経済的支援として、各種奨学金の情報提供を充実させる。</p>	<p>・成績優秀者奨学制度を継続的に実施する。</p> <p>・各種奨学金の情報提供を行う。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・学生に、より広範な学習の機会を与えるとともに、活気あふれる教育環境の向上を図ることを目的とした成績優秀者奨学制度に基づき、31名に奨学金を交付した。</p> <p>・各種奨学金に関する情報は、掲示板、ポータルサイト等により情報提供(34件)するとともに、窓口でも丁寧な説明を行った。</p>																													

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
1 愛知県立大学
(2) 研究に関する目標

<p>中期目標</p>	<p>優れた研究者・教員を確保するとともに、若手研究者等によるオリジナリティのある研究や、地域の発展に貢献する研究、学部・学科・大学の枠を超えた共同研究の推進などに努めることにより、各教員や大学全体の研究力を高め、その成果をもって地域社会や国際社会に貢献する。</p>
-------------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に対するコメントなど
31 公募によって優れた研究者・教員を確保する。	・研究者と教員を公募によって採用することを原則とする。	「年度計画を十分に実施している」 ・各学部合計 20 名の教員すべてについて、公募により採用を決定した。(外国語学部 2 名、日本文化学部 1 名、教育福祉学部 4 名、看護学部 6 名、情報科学部 1 名、教養英語 4 名、グローバル教員 2 名)	
32 学長特別研究費において、若手研究者によるオリジナリティのある研究を支援する。	・若手研究者のオリジナリティのある研究を支援する方法を検討する。	「年度計画を十分に実施している」 ・若手研究者 (39 歳以下) への研究助成を募集し、応募された 6 名のうち、3 名の研究計画を採択した。 [参考資料 5]	
33 学長特別研究費において、地域の発展に貢献する研究を支援する。	・地域の発展に貢献する研究を支援する方法を検討する。	「年度計画を十分に実施している」 ・学長特別教員研究費交付規程を改正し、地域の発展に貢献する研究を対象とする旨を加えた。	
34 学術研究情報センター (図書館として学術情報を発信するとともに教員の研究支援を担う) が、学部・学科の枠を越えた共同研究及び外部との共同研究を支援する。	・愛知県総合教育センターや教育委員会と連携して共同研究を推進する。	「年度計画を十分に実施している」 ・本学生涯発達研究所と愛知県総合教育センターの連携による「発達障がい児支援スクールボランティア研修に関する研究」を主題とした共同研究、情報科学部と愛知県総合教育センターの連携による情報教育担当教員の資質向上のための「情報教育長期研修」や、教育委員会との共催による講座・セミナー等外部との連携による研究・取組を推進した。 ・「安全な社会生活の実現に関する研究」や「圧電センサの評価」など、情報科学部を中心に共同研究 12 件 (9,823 千円)、受託研究 1 件 (210 千円) を実施し、大学と企業との産学連携の推進を図った。 [データ集 5] ・学部・学科の枠を越えた共同研究及び外部との共同研究を支援するため、2 キャンパス合同教員研究発表会や 2 大学交流教員研究発表会を開催するとともに、「愛知県立大学学術情報リポジトリ」を創設した。また、研究者データベースの導入について検討を進めた。	
35 (指標) 科学研究費補助金の申請率が毎年度 80% (研究分担者を含む) に到達することを旨とする。	・競争的資金に関する申請サポート体制を検討する。 ・外部資金申請に必要な情報を収集し、学内に広く公表する。 ・外部資金申請に役立つ講演会などを企画、実施する。	「年度計画を十分に実施している」 ・25 年度科研費申請率は 87.4% (研究分担者を含む) となり、目標の 80% に到達した。(前年度 78.2%) [データ集 6] ・研究活動の支援・推進のため、研究推進委員会を設置した。また、過去に採択された申請書の開示や教員研究室での相談個別対応、申請内容の丁寧なチェック等、事務職員による科研費申請のための補助をきめ細やかに行った。 ・競争的資金に関する情報をメールで全学に発信するなど、広く公表した。より有効な情報発信の方法について検討し、外部資金情報等を常時発信するためのホームページを 26 年度に公開できるよう準備を進めた。 ・科研費説明会の中で、他大学科研担当者の講演や科研獲得教員の講演等を実施し、外部資金申請に関する情報共有、申請の促進を図った。	

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 1 愛知県立大学
 (3) 地域連携・貢献に関する目標

中期目標	愛知県や他の自治体、産業界、名古屋市立大学などの他大学、地域社会等との多様な連携を充実させ、県民の生活と文化の向上、地域の課題解決や活力創出に貢献する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に対するコメントなど
36 地域連携センターが、学外ニーズと学内シーズのマッチングを促進する	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携センターの業務について絶えず積極的な見直しを行う。 地域連携センターが、学外ニーズと学内シーズのマッチングを行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携センターを中心にCOC事業（地（知）の拠点整備事業）の申請を行うとともに、県大での教育・研究における自治体をはじめとした地域との連携強化策を検討した。 長久手市や知立市などからの、講演・福祉計画策定、アンケート依頼等のニーズに対してマッチングを実施した。（6件）また、地域連携センターの取組をPRするためのリーフレットを作成した。 	
37 愛知県の審議会等への参画を通じて、愛知県の政策・施策の推進を積極的に支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県の審議会等委員に参画する。 愛知県が行う持続発展教育（Education for Sustainable Development: ESD）に関する事業に協力する。 愛知県が推進する知の拠点重点研究プロジェクト事業の超早期診断技術開発プロジェクトに参画する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学教員56名が計127件（愛知県41件（愛知県社会福祉審議会等）、その他86件）の審議会等委員に所属した。 ESDパートナーシップ事業として「はじめてのインドネシア語講座」を全5回実施し、延べ74名が参加した。 超早期診断技術開発プロジェクトに、情報科学部教員6名、看護学部教員4名が参画し、そのうちの「動脈硬化・心臓病などを低侵襲で早期に発見する装置の開発」（H23～H27）の取組に対して、25年8月の外部評価委員による中間審査でS評価を得た。 	
38 愛知県教育委員会と高大連携事業を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県教育委員会と「知の探究講座」を継続する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知の探究講座」を8月に第Ⅰ期10講座（5日間）、10月～11月にかけて第Ⅱ期6講座（3日間）実施し、高校生45名が参加した。 	
39 長久手市、その他の自治体、産業界、名古屋市立大学などの他大学との連携を拡充する。	<ul style="list-style-type: none"> 長久手市大学連携推進協議会を核に連携事業を推進する。 地域課題解決のため他団体との連携について検討する。 名古屋市立大学との具体的な連携事業について検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 長久手市内4大学（県大、芸大、愛知医科大学、愛知淑徳大学）と長久手市との連携による大学連携推進協議会において、市長インターンシップや学生記者などを企画した。 科学研究費補助金による研究の一環として、スクールソーシャルワーカーを活用した体制構築に関する連携協定を日進市教育委員会と締結し、スクールソーシャルワーカー（1名）の派遣を開始した。 名古屋市立大学との連携による特別展示「文字のチカラ」展を開催した。（1/4～2/16、来場者約10,000名）また、特別展示に先立 	

		ち、公開講座『『文字のチカラ』展を楽しむために』を開催し、約120名の参加があった。 ・中経連主催の産学交流会「NEXT30 産学フォーラム」を開催し、本学及び他大学教員による講演、学生による大学の特徴的な研究・取組紹介など、相互理解を深めるための交流を図った。																													
40 一般向け学術講演会及び生涯学習支援をはじめとする公開講座を開催し、研究の成果を地域の発展に繋げる。	・学術講演会及び公開講座を継続的に実施する。	「年度計画を十分に実施している」 ・「ヨーロッパと日本の経験から考える多文化共生」や「グローバル化時代の文化の境界」など13企画（参加者計3,368名）を実施した。 [データ集7]																													
41 (指標) 一般向け学術講演会及び公開講座を毎年度10企画開催する。		「年度計画を十分に実施している」 13企画61回参加者3,368名																													
42 小・中・高等学校の現職教員や看護師等に対する研修等を支援する。	・認定看護師教育課程を運営し、がん化学療法看護認定看護師及びがん性疼痛看護認定看護師を育成する。 ・看護職を対象とした研修会を企画し開催する。 ・県内他大学や教育委員会と連携して小・中・高等学校等の現職教員の研修のプログラムを検討する。	「年度計画を十分に実施している」 ・認定看護師教育課程を運営し、がん化学療法看護認定看護師及びがん性疼痛看護認定看護師の各分野15名が課程を修了した。 [参考資料6] ・看護職を対象とした研修会及び研究個別指導を以下のとおり実施した。 <table border="1" data-bbox="1142 955 1923 1138"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護職者一般対象のセミナー</td> <td>4件 319名</td> <td>6件 453名</td> </tr> <tr> <td>認定・専門看護師対象セミナー</td> <td>9件 436名</td> <td>6件 447名</td> </tr> <tr> <td>看護研究個別指導</td> <td>8件</td> <td>9件</td> </tr> </tbody> </table> ・大学間連携共同教育推進事業に参画し、学校図書館司書教諭の養成、単位互換方式による共同教育、各種現職教育研修、教育実習評価などのプログラムを検討した。また、同窓会組織と連携し、現職教員と教職課程履修者を対象とする研修会を実施した。	区分	H24	H25	看護職者一般対象のセミナー	4件 319名	6件 453名	認定・専門看護師対象セミナー	9件 436名	6件 447名	看護研究個別指導	8件	9件																	
区分	H24	H25																													
看護職者一般対象のセミナー	4件 319名	6件 453名																													
認定・専門看護師対象セミナー	9件 436名	6件 447名																													
看護研究個別指導	8件	9件																													
43 地域住民のニーズに応じた事業を実施する。	・医療分野ポルトガル語・スペイン語講座を継続的に実施する。	「年度計画を十分に実施している」 ・長久手キャンパス及びサテライトキャンパスにおいて講座を開講し、次のとおり受講者を受け入れた。 [参考資料7] 【受講者数】(()内はサテライトキャンパス受講者数) <table border="1" data-bbox="1172 1543 1973 1915"> <thead> <tr> <th>言語</th> <th>レベル</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">ポルトガル語</td> <td>入門</td> <td>12 (11) 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>初級</td> <td>0 名</td> <td>15 (12) 名</td> </tr> <tr> <td>中級</td> <td>2 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">スペイン語</td> <td>入門</td> <td>9 (8) 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>初級</td> <td>2 名</td> <td>18 (17) 名</td> </tr> <tr> <td>中級</td> <td>6 名</td> <td>3 名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>31 (19) 名</td> <td>40 (29) 名</td> </tr> </tbody> </table>	言語	レベル	H24	H25	ポルトガル語	入門	12 (11) 名	1 名	初級	0 名	15 (12) 名	中級	2 名	2 名	スペイン語	入門	9 (8) 名	1 名	初級	2 名	18 (17) 名	中級	6 名	3 名	計		31 (19) 名	40 (29) 名	
言語	レベル	H24	H25																												
ポルトガル語	入門	12 (11) 名	1 名																												
	初級	0 名	15 (12) 名																												
	中級	2 名	2 名																												
スペイン語	入門	9 (8) 名	1 名																												
	初級	2 名	18 (17) 名																												
	中級	6 名	3 名																												
計		31 (19) 名	40 (29) 名																												

	<p>・看護実践センターが子育て支援もりっこやまっこ事業を継続的に実施する。</p>	<p>・子育て支援もりっこやまっこ事業として、守山キャンパス体育館を開放して未就園の子と保護者を対象とする「自由ひろば」を開催した。プログラムの一部として、「ベビーサイン体験教室」や「院生による育児講座」等を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="1145 321 1967 501"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「自由ひろば」開催回数</td> <td>14回</td> <td>14回</td> </tr> <tr> <td>延べ参加組数</td> <td>902組</td> <td>965組</td> </tr> <tr> <td>登録組数</td> <td>203組</td> <td>219組</td> </tr> </tbody> </table>		H24	H25	「自由ひろば」開催回数	14回	14回	延べ参加組数	902組	965組	登録組数	203組	219組	
	H24	H25													
「自由ひろば」開催回数	14回	14回													
延べ参加組数	902組	965組													
登録組数	203組	219組													

項目別の状況

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

2 愛知県立芸術大学

(1) 教育に関する目標

中期目標	<p>ア 入学者選抜 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、芸術活動への意欲が高く、実技の基礎能力を備えた、芸術を通して人に感動を与えられる資質を持つ学生を確保する。</p> <p>イ 学部教育及び大学院教育 学生一人ひとりへのきめ細やかな指導に基づく世界レベルの専門・実技教育を促進し、芸術文化を担い、かつ創造する芸術家、研究者、教育者等、芸術文化に携わる優れた人材を育成する。 特に大学院教育においては、学部教育を基礎とした専門教育の充実を図りながら、様々な芸術表現に対応できる高度な専門能力を有する人材や自立して活動し得る芸術家・研究者、芸術文化の分野において中核的・指導的役割を担うことができる人材を養成する。</p> <p>ウ 卒業認定 卒業生と修了生の質を保証するため、成績評価基準を常に検証し必要に応じて改善するとともに、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）に基づき適正に卒業認定を行う。</p> <p>エ 学生への支援 学生の学習環境の整備や、国際的な芸術教育・活動、進路支援、健康管理、経済的な支援などを通じて、学生の学ぶ意欲を高めるとともに、安心して修学を継続できるようにする。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
<p>ア 入学者選抜</p> <p>44 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、芸術活動の意欲が高く、実技の基礎能力があり、人を感動させられる学生を獲得するため、学部及び博士前期課程の入学定員や社会人、外国人等の入試制度を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽学部作曲専攻音楽学コースの定員及び美術研究科博士前期課程の定員見直しを検討する。 外国人、社会人、自己推薦入試などの入試制度の見直しを検討する。 多様な受験志望者に対する大学院の受験資格認定の方法について再検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試委員会にて音楽学コース及び美術研究科博士前期課程の定員について検討した結果、引き続き現行の定員を設定することとした。 外国人、社会人、自己推薦入試について見直した結果、13年度入試から実施している美術学部社会人特別入試について、志願者及び入学者の動向を踏まえ、27年度入試からデザイン専攻以外は実施しないこととした。 入試委員会にて主に外国人の受験資格認定の方法について検討した結果、入試制度や受入態勢の見直しを含めて、引き続き検討することとした。 	
<p>45 様々な媒体により本学の魅力を発信して入試広報活動を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページに動画や卒業生インタビューを掲載するなどして更なる充実を図り、優秀な受験生獲得に役立てる。 芸大のロゴを作成する。 マスコミ媒体を重視することにより本学の魅力を発信する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> YouTube を利用した動画・音声の掲載機能を追加するとともに、14件（美術：6件、音楽：8件）の卒業生インタビュー記事を掲載した。また、新たに7専攻・コースのオリジナルサイトを作成し、全12専攻・コースのサイト作成を完了した。 ロゴタイプデザインを作成し、マニュアルを整備した。 各種記者クラブへの働きかけを積極的に行った結果、主要日刊紙に46件の記事が掲載された。また、CBCにおいて芸大オペラを特集した番組「僕らが歌を歌うわけ」が放映された。 	

<p>イ 学部教育及び大学院教育</p> <p>46 専門分野の基礎教育や語学教育の充実を図り、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）に基づき、学生一人ひとりへのきめ細やかな指導を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義とレッスンの双方の特質を兼ねた、ゼミ形式授業の充実を検討する。 ・ソルフェージュ、和声、音楽理論など音楽の基礎能力向上のためのカリキュラムの体系的な改革を継続する。 ・派遣留学生に対する語学教育の充実を図る。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院特殊研究の授業（複合領域）において、複数の教員による実技レッスンを学生が相互に聴講するゼミ形式の授業を増加し（H24：1.5時間→H25：3時間）、学生へのきめ細やかな指導を行った。 ・ソルフェージュのより合理的な評価基準について検討し、試験内容及び評価基準を見直した。また、各クラス共通の教材を試行導入するとともに、和声・音楽理論等理論系科目との連携を推し進めるためのさらなる教材の共通化について検討した。 ・海外協定校への派遣留学生を対象とする海外留学奨学金（兼松信子基金）について、交付金額を30万円から50万円に増額し、語学教材の購入や語学学校での学習を促進した。 	
<p>47 学生の国際交流事業の充実や著名なアーティスト・研究者の招聘により、国内に留まらず世界に通用する芸術家を育成する専門・実技教育を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短期プログラムによる協定校と学生の交流を実施する。 ・アーティスト・イン・レジデンス事業において協定校からの教員を受け入れ、専門・実技教育を実施する。 ・マインツ応用科学大学（ドイツ）、清華大学（中国）と連携授業を実施する。 ・招聘教員の研究・滞在の受入対応を検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協定校（チェンマイ大学、エジンバラ芸術大学）より各1名ずつ留学生を迎えるとともに、協定校等6校との国際交流展を開催するなど交流を深めた。また、ケルン音楽大学と短期プログラム実施に向けた協議を行った。 <p style="text-align: right;">[データ集10]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト・イン・レジデンス事業[参考資料8]において、協定校等から教員4名を迎え、学生への専門・実技教育及び公開コンサート・レッスンを実施した。 ・マインツ応用化学大学非常勤講師3名による英語でのデザイン・ワークショップを実施し、その様子をYoutubeにて発信した。清華大学との連携授業（陶磁）については、26年度の実施に向け、内容を協議した。 ・招聘教員の活動スペース確保の観点から、既存施設の見直しを行い、旧音楽学部棟の活用等を継続検討することとした。 	
<p>48 様々な芸術表現に対応できる高度な専門能力を有する人材や自立して活動し得る芸術家・研究者、芸術文化の分野において中核的・指導的役割を担うことができる人材を養成するため、学部と大学院の連携により専攻・コース・領域の枠にとらわれることなく学修できる体制を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オペラなど複合芸術分野の研究を推進する。 ・古典絵画の保存、修復の教育を推進する。 ・名古屋大学、名古屋学芸大学などの外部研究機関との授業連携を継続する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両学部・大学院の連携により、音楽と美術の総合芸術プロジェクトであるオペラ公演を引き続き実施した。リハーサルや本番の様子が、CBCの特別番組「僕らが歌を歌うわけ」として取り上げられ、学外の注目と関心を集めた。 ・学部と大学院博士前期課程の連携により、岐阜市真長寺の仏画修復にかかる教育を実施した。 ・名古屋大学との連携により、本学大学院生による教養教育科目の授業や、本学アーティスト・イン・レジデンス事業[参考資料8]で招聘した教授によるピアノレクチャーコンサートを実施した。また名古屋学芸大学と連携し、本学オペラ公演の舞台美術制作を行った。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭など学外の芸術文化企画及びイベント等へ積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アートラボあいち及び愛知芸術文化センターにおける大学連携プロジェクト、あいちトリエンナーレ 2013 並行企画事業、瀬戸内国際芸術祭 2013 など、学外の企画・イベント等へ積極的に参加することにより、学部と大学院の連携や他大学学生との交流を図った。 <p style="text-align: right;">[データ集 8・9]</p>	
49 博士課程においては、教務に関する運営の見直しなど前期・後期課程の連携を促進し、副指導教員を配置するなど研究・指導体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期及び後期課程の連携について、美術研究科会議で検討する。 ・美術研究科博士後期課程で副指導教員を配置するなど、より先端性に特化した研究指導体制を検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研究科で検討した結果、学部や博士前期課程の会議等においても、博士後期課程の研究経過や指導状況を定期的に報告することとした。 ・美術研究科では、博士後期課程への副指導教員の配置について、ワーキング部会を設置し、継続して検討することとした。音楽研究科では、24年度より博士後期課程副指導教員を配置し、博士後期委員会において運用について検討している。 	
50 FD 活動については、国公立五芸大との間で情報交換を行うとともに、授業アンケートの結果等を活用して教育内容・方法の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・FDについて国公立五芸大との間で情報交換を行う。 ・授業アンケートの結果を活用し授業の更なる改善を図る。 ・学事暦の前期・後期日程を見直す。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年開催の五芸祭において、東京芸大の公開レッスン等を見学し、実技カリキュラムなどについて情報提供を受けた。また、国公立五芸大の教員により継続的に情報交換を行い、その結果を学内で共有した。 ・授業アンケート結果や講義の状況をもとに、各専攻会議において情報共有及び意見交換を行った。アンケートにおける要望をもとに、レポート作成指導を新たに実施するなど、改善を図った。 ・後期の授業時間を確保するため、後期日程開始日を10月1日から9月20日に変更した。 	
ウ 卒業・修了認定 51 教育の質の保証を担保するため、成績評価基準を常に検証し、必要に応じて改善する。	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準を検証し、必要に応じて改善する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽学部では、専攻部会等で各実技試験の評価基準等について検討し、「ソルフェージュ」の実技試験の配点や実施内容等を見直した。美術学部では、卒業制作の単独単位化（4単位）の検討に着手した。 	
52 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）に基づき適正に卒業認定を行い、卒業制作・卒業演奏など対外的な公表を積極的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業・修了制作展・卒業演奏会などの対外的な公表を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術学部は、学外での卒業・修了制作展を引き続き実施した。また、制作展の期間中、サテライトギャラリーにおいて、画廊など美術関係者と学生との交流親睦会を開催した（美術関係者29名、学生26名、教員9名参加）。 ・音楽学部は、学外での卒業・修了演奏会を引き続き実施するとともに、学位授与審査のための演奏についても一部一般公開にて実施した。 	

<p>エ 学生への支援</p> <p>53 制作環境や練習環境など学生の学習環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新音楽学部棟の整備により練習環境を整備・改善する。 ・芸術情報センター図書館の運営について、利用者の声を取り入れつつ改善し、利用促進を図る。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新音楽学部棟の竣工（9月）、後期からの供用開始により、練習環境を整備・改善し、また録音設備や楽器及び周辺機器など、授業等に必要な設備・機器等を整備した。 ・図書館利用者アンケートを実施し、要望の高い事項への対応策を引き続き検討することとした。 																			
<p>54 留学に関する支援体制を整備するとともに、留学情報の発信に努め、学生の国際的な芸術教育や展覧会・演奏会などの活動を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルを作成し、留学に関する危機管理体制を整備する。 ・留学など国際交流に関する情報発信を充実させる。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生派遣時における大学の危機管理に関するマニュアルを策定した。また、本学から派遣する学生及び本学教員が海外に引率する学生は、危機管理保険へ加入した。 ・協定校への派遣留学生の月次報告やアーティスト・イン・レジデンス事業[参考資料8]の報告をホームページに掲載するとともに、国際交流事業に関する海外向けの案内冊子（英語）を作成した。また、管理棟2階に国際交流室を設置し、学生の海外渡航等に関する相談対応、国際交流事業に関する情報発信を強化・充実した。 																			
<p>55 在学生から卒業生まで幅広く、就職支援や資格情報の提供を充実させ、学生の将来の目標、将来設計を啓発し、卒業後の自立に向けた支援をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談・ガイダンスを充実させる。 ・就職支援、資格情報、留学情報、卒業生による卒業後の生活情報の提供を充実させる。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職を希望する学生に対しては、職業適性検査、専門職員やハローワークから派遣されるジョブサポーターによる就職相談、就職ガイダンスなどを、就職を希望しない学生に対しては、各専攻担当教員による進路相談、大学院進学者に対する個別面談などを実施した結果、就職相談件数は280回（前年度の1.6倍）に達した。 <table border="1" data-bbox="1205 1373 1976 1696"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職ガイダンス</td> <td>23回</td> <td>19回</td> </tr> <tr> <td>教員採用試験説明会</td> <td>1回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>就職相談</td> <td>170回</td> <td>280回</td> </tr> <tr> <td>職業適性検査</td> <td>2回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数)</td> <td>91.7%</td> <td>88.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">[データ集3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人・企業説明会・資格に関する情報の提供や、芸術活動を続けている卒業生による講演等を実施した。留学説明会や留学報告会を行うとともに、派遣留学生のレポートをホームページに随時掲載した。また、管理棟2階に個別面談ができる 		H24	H25	就職ガイダンス	23回	19回	教員採用試験説明会	1回	2回	就職相談	170回	280回	職業適性検査	2回	5回	学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数)	91.7%	88.4%	
	H24	H25																			
就職ガイダンス	23回	19回																			
教員採用試験説明会	1回	2回																			
就職相談	170回	280回																			
職業適性検査	2回	5回																			
学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数)	91.7%	88.4%																			

		キャリア支援室や国際交流室を設置し、学生が安心して相談できる体制を整備した。										
56 保健室や学生相談室の機能を強化し、学生の健康で安全なキャンパスライフを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 学生相談室の利用時間を倍増する。 防災、交通教育を実施し、防災・交通安全に対する意識を高める。 身体障がい学生への支援を充実させる。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生相談員（教員）や保健師による相談を随時受け付けるとともに、臨床心理士によるカウンセリングを週1回から週2回に拡大し、体制の充実を図った。定期健康診断を引き続き実施した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学生相談等内容</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床心理士による カウンセリング</td> <td>H24：月4時間 H25：月水 各4時間</td> <td>延べ 155人</td> <td>延べ 152人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 防災訓練や警察官による交通安全講習会を開催し、学生の防災・交通安全意識を高めた。 障がい有する入学志願者4名に対し、事前に状況を確認し、個々に適切な対応を行った。 	学生相談等内容		H24	H25	臨床心理士による カウンセリング	H24：月4時間 H25：月水 各4時間	延べ 155人	延べ 152人		
学生相談等内容		H24	H25									
臨床心理士による カウンセリング	H24：月4時間 H25：月水 各4時間	延べ 155人	延べ 152人									
57 学生に対する経済的支援として、各種金の情報提供を充実するとともに、大学独自の奨学金の拡充を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学生を対象とする奨学助成団体の開拓による奨学金制度の充実を図る。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規に2件（青山財団、山田貞夫奨学制度）の奨学助成団体を開拓し、奨学金を拡充した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>人数</th> <th>奨学金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青山財団</td> <td>8名</td> <td>年額60万円</td> </tr> <tr> <td>山田貞夫</td> <td>8名</td> <td>6か月12万円 ※26年度は年額24万円</td> </tr> </tbody> </table>	団体名	人数	奨学金	青山財団	8名	年額60万円	山田貞夫	8名	6か月12万円 ※26年度は年額24万円	
団体名	人数	奨学金										
青山財団	8名	年額60万円										
山田貞夫	8名	6か月12万円 ※26年度は年額24万円										

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
2 愛知県立芸術大学
(2) 研究に関する目標

中期目標	世界レベルの質の高い研究や教員による芸術活動などを推進することにより、世界に発信する国際的な芸術文化を創造する拠点となることを目指す。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
58 専門性により特化した研究や海外提携校及び教育研究機関との交流により国際的に通用する質の高い研究を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 教王護国寺（京都市）所蔵両界曼荼羅、本證寺（安城市）所蔵聖徳太子絵伝及び真長寺（岐阜市）所蔵の仏画など文化財の研究、調査、再現研究等を推進する。 協定校及び教育研究機関等から教員を招聘して、講義やワークショップを実施す 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 奈良国立博物館との共同による「両界曼荼羅」研究、安城市歴史博物館との共同による「聖徳太子絵伝」研究、真長寺所蔵の仏画にかかる再現研究などを実施した。 チェンマイ大学の教員（3名）による彫刻専攻の学生に対する講義、カリフォルニア大学サンディエゴ校の教員（1名） 	

	る。	による作曲専攻の学生に対する講義を実施した。また、本学主催の国際交流展の一環として、協定校2校(台南芸術大学、チェンマイ大学)及びロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズから教員を招へいし、教員・学生との交流やワークショップを実施した。 ・アーティスト・イン・レジデンス事業[参考資料8]における国際レベルの芸術家との交流を通じて、研究の活性化を図った。													
59 展覧会・演奏会など芸術家集団としての教員による芸術活動を推進し、その成果を世界に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・協定校及び教育研究機関等へ本学教員を派遣し、交流の充実を図る。 ・日本画専攻及びデザイン専攻において受託研究を推進する。 ・アートラボあいちで現代美術に関する展覧会を実施する。 ・芸大の学術情報の電子化に向けて調査を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協定校であるハンブルク音楽大学へ深町准教授(管打楽器コース)を派遣し、同学の学生へのレクチャー、コンサートでの共演などを行った。 ・日本画及びデザイン専攻において、「碧南市民との協働作業を通じた景観に関する研究」(碧南市)始め4件の受託研究を実施した。 ・アートラボあいちにおいて、「キュービックミュージアム・プロジェクト+α」を開催し、教員13名の研究成果を発表した。(入場者:約650名) ・「愛知県立芸術大学アトリポジトリ(仮称)」の公開に向け、国立情報学研究所共用リポジトリシステム(JAIRO Cloud)を活用し、過去の大学紀要論文の電子化作業を実施した。 													
60 科学研究費補助金及びその他の助成金について、申請件数の増加を図る。		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授会での申請働きかけや、県立大学にて開催の説明会へ参加する等、申請件数の増加に努めた。 ・外部資金獲得の取組として、「碧南市民との協働作業を通じた景観に関する研究」(碧南市)や「“和紙のふるさと・小原和紙”の文化再創事業」など、受託研究4件(6,666千円)、共同研究1件(5,000千円)を受け入れた。 													
61 (指標) 毎年度20件の申請を目指す。	・20件の申請を目指す。	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25年度の申請件数は22件となり、目標を達成した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>申請件数</th> <th>採択件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>科学研究費補助金</td> <td>9件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>その他助成金</td> <td>13件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>22件</td> <td>6件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">[データ集5・6]</p>		申請件数	採択件数	科学研究費補助金	9件	3件	その他助成金	13件	3件	合計	22件	6件	
	申請件数	採択件数													
科学研究費補助金	9件	3件													
その他助成金	13件	3件													
合計	22件	6件													

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
2 愛知県立芸術大学
(3) 地域連携・貢献に関する目標

中期目標	地域の芸術文化を担い、支える人材の育成、県民が芸術に親しむ機会の創出など、愛知県や他の自治体、産業界、名古屋市立大学などの他大学、地域社会等との多様な連携を通じて、芸術文化の発展に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
62 愛知県や他の自治体、産業界、他大学、地域社会との連携を通じて、地域文化を担う人材を育成し、あいちトリエンナーレへの参画など地域の芸術文化の発展に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、若者を対象とした講座を実施する。 ・地域との連携により、演奏家や講師の派遣及び大学見学の受入等を行い、学校との交流を図る。 ・出張演奏などアウトリーチ活動を充実させる。 ・陶磁専攻と多治見市等の地場産業との連携など地域に根ざした産学連携教育を実施する。 ・あいちトリエンナーレなど国際芸術祭の企画に参画する。 ・長久手市との連携により、博士前期課程修了者を対象とした優秀な学生を顕彰する制度を運営する。 ・名古屋芸術大学、名古屋造形大学と連携して油画、版画の学生交流展を開催する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知芸大芸術講座[参考資料9]において、「打楽器音楽をつくって聴こう」など子ども向けの講座を4講座(参加者:143名)実施した。また、「弦楽合奏セミナー」など若者を含む一般向け講座を17講座(参加者:1,446名)実施した。 [データ集7] ・みよし市での「小中学生思い出コンサート」、瀬戸窯業高校及び岐阜県立加納高校等への講師派遣を行った。また、法隆寺金堂壁画模写展示館において、他大学や美術高校、専門学校等からの見学を受け入れた。 ・名倉小学校(設楽町)での演奏会、長久手市文化の家における「ギャラリーコンサート」、陶磁美術館ラウンジコンサートなど、アウトリーチ活動を活発に実施した。 ・瀬戸石膏型組合が実施する伝統技術指導に、陶磁専攻の学生12名が参加した。 ・あいちトリエンナーレ2013において、アートラボあいち及び愛知芸術文化センターにおける大学連携プロジェクトを実施するとともに、並行企画事業として、『グラハム・エラード&スティーブン・ジョンストン~EVERYTHING MADE BRONZE~』(栄サテライトギャラリー)及び『国際交流展NANAIRO-なないろ』(芸術資料館)を開催した。また、瀬戸内国際芸術祭2013に参画し、MEGI HOUSEにおいて両学部共同イベント、コンサート、国際交流コラボレーション等を開催した。 [データ集8・9] ・博士前期課程修了者を対象とした顕彰制度を創設し、25年度修了者3名に対して長久手市長賞を授賞した。 ・名古屋芸大、名古屋造形大との連携により「交差する版画/Exchange Exhibition of Printmaking 2013」(名古屋造形大学Dギャラリー)を開催した。 	
63 美術館や博物館との連携による展覧会・演奏会の開催、栄のサテライトギャラリー及び豊田市藤沢アート	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会・演奏会を通じた地域との交流を促進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を図るため、展覧会(43件)、演奏会(70件)、演奏派遣(29件)を継続的に実施した。また、愛知県陶磁 	

<p>ハウスの活用などにより、県民が芸術に親しむ機会を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栄のサテライトギャラリー及び豊田市藤沢アートハウスの活用を促進する。 ・芸術情報センターの地域開放を検討する。 	<p>美術館やトヨタ博物館等との連携による「リニモ沿線ミュージアムウィーク」を開催し、リレーコンサートや美術講座等を実施した。</p> <p style="text-align: right;">[データ集7・8・9]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サテライトギャラリーにおいて、本学出身作家の個展や在学生のグループ展、交流校の教員による作品展示など、年間18企画を実施した。 <p style="text-align: right;">[データ集8]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢アートハウスにおいて、ピアノ演奏会や油画卒業生によるワークショップを開催した。また、26年度からは卒業生のみならず大学院生まで利用対象を広げ、活用の促進を図ることとした。 ・他大学の状況をヒアリングするとともに、図書館運営委員会において地域への開放方法・実施時期について検討を行った。 	
<p>64 (指標) 栄サテライトギャラリーの展覧会等入場者数について、平成30年度に4,000人を目指す。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいちトリエンナーレ開催年で連携企画が好評を博したこともあり、入場者数は大幅増加(3,622人)となった。(H24: 2,941名) <p style="text-align: right;">[データ集8]</p>	
<p>65 文化財の研究調査、保存、修復、理論研究、再現研究等を推進するとともに、その運営体制等の事業プランを策定し、実現を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教王護国寺(京都市)所蔵両界曼荼羅、本證寺(安城市)所蔵聖徳太子絵伝及び真長寺(岐阜市)所蔵の仏画の修復など保存事業を推進する。 ・文化財保存修復にかかる事業プランを検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両界曼荼羅、聖徳太子絵伝の模写及び真長寺所蔵仏画などの修復作業を実施した。 ・文化財保存修復研究所を設立することとし、26年度の予算措置及び人員配置を行った。 	

項目別の状況

第2 法人運営の改善に関する目標
1 組織運営の改善に関する目標

中期目標	大学法人を取り巻く厳しい競争的環境の下、競争力のある、魅力あふれる大学づくりのために、理事長及び学長のリーダーシップの下、教職員が一体となって、自主・自律的かつ弾力的・機動的な運営を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
66 自己決定・自己責任の原則の下で、法人経営及び教育研究に関わる法人運営についてPDCAを推進し、組織・業務運営の高度化・改善を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 法人経営及び教育研究に関わる法人運営について、25年度計画の進捗点検→評価→改善→26年度計画の策定、のPDCAサイクルを推進する。 法人経営の年度業務運営について、理事長提示の年度方針を基にする各部年度重点施策の策定→実行→進捗点検→評価→改善→26年度方針・重点施策の策定、のPDCAサイクルを推進する 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度計画の進捗管理を効果的に実施する方法・様式を決定し、それに基づき、中間フォロー、改善、26年度計画の策定のPDCAサイクルを推進した。 職員の意識改革を図るため、理事長提示の年度方針に基づき、各部重点施策として意欲的な目標を定め、取り組んだ。進捗点検・評価（11月）、理事長による26年度方針の提示（12月）、各部重点施策の策定（3月）のPDCAサイクルを推進した。 	1	Ⅲ		
67 理事長及び学長のリーダーシップの下で、誰もが誇りに思う大学づくりに向け、予算配分や人員配置などについて計画的な資源配分を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 26年度予算編成について、事業の見直しによる財源捻出と、26年度計画を軸にした予算編成を計画的に推進する。 管理部門の合理化等により人員捻出を図り、大学業務部門へ重点的に再配置するため、現在の員数内でより効果的な人材配置計画を具体化する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師給与や維持管理業務委託の見直しなどにより財源を捻出し、ネイティブ教員増員、文化財保存修復事業などへ重点配分した。また、理事長・学長のリーダーシップのもと、年度計画に重点を置いた予算編成を行った。 26年7月に実施する管理部門の集中・集約化等の組織改編及び大学業務部門への再配置案を9月に策定し、5名程度の人員捻出の目処を立てた。 	1	Ⅲ		
68 (指標) 毎年度、事業費予算の10%のスクラップアンドビルドを目指す。		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>事業費予算の10.1%についてスクラップアンドビルドを実施した。</p> $\text{H26 廃止・見直し事業費} / \text{H25 事業費予算} = (273 \text{ 百万円}) / (2,711 \text{ 百万円}) = 10.1\%$	1	Ⅲ		

<p>69 より効果的かつ円滑な組織運営に向け、大学組織及び事務組織の体制見直し・整備などを適時適切に検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県大センター組織の見直しに伴い、必要な事務体制を整備する。 ・施設整備課を新設し、法人施設の管理及び維持修繕の集中化と効率化を推進する。 ・経営財務や人事給与部門の一元化に向けた組織体制や事務分掌の検討を行うとともに、組織の効率化を継続的に検討するための仕組みを具体化する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織見直し後の各センターに必要な担当職員を配置した。 ・10月に施設整備課を新設し、専門職の課長を採用した。両大学の施設管理及び維持修繕に関する業務を11月に集中化した。 ・経営財務や人事給与部門の一元化に向けた、管理部門の集中・集約化等の組織改編案及び経理事務見直し案を策定した。組織改編の効果及び問題点を検証すべく、組織横断的なプロジェクトチームを立ち上げることを決定し、事務の見直しを継続的に検討していくこととした。 	1	Ⅲ		
--	--	--	---	---	--	--

(ウェイト付けの理由)

第2 法人運営の改善に関する目標
2 人材の確保・育成に関する目標

中期目標	教員・職員の一人ひとりが、県民の期待に応え、信頼され、高い評価を受けられるよう、人事諸制度の適切な運営を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど												
				自己評価	委員会評価													
70 教員については、その意欲を高め、能力を発揮し、教育研究や大学運営の質的向上につながるよう、公募制、人事評価制度など、適切な運用・改善を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の採用は、公募採用を原則とする。 ・人事給与制度については、教員評価委員会による人事評価結果の検証を踏まえ、適切に運用する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立大学では教員20名、芸術大学では教員6名について公募により採用を決定した。 ・教員人事評価委員会において、過去の結果を踏まえ、教員評価制度を適切に運用した。 	1	Ⅲ														
71 職員については、愛知県の派遣職員から法人固有職員への切り替えを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5人程度を固有職員化する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7名の固有職員（一般職5名、課長職2名）を採用した。 	1	Ⅲ														
72 (指標) 平成30年度末時点で法人固有職員比率70%を目指す。		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25 法人固有職員比率 56.2% <table border="1" data-bbox="1115 1766 1828 1942"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人固有職員数</td> <td>54人</td> <td>59人</td> </tr> <tr> <td>正規職員総数</td> <td>106人</td> <td>105人</td> </tr> <tr> <td>比率</td> <td>50.9%</td> <td>56.2%</td> </tr> </tbody> </table>		H24	H25	法人固有職員数	54人	59人	正規職員総数	106人	105人	比率	50.9%	56.2%	1	Ⅲ		
	H24	H25																
法人固有職員数	54人	59人																
正規職員総数	106人	105人																
比率	50.9%	56.2%																

<p>73 また、組織力を高めるため、職員の資質向上のための組織的な取組（スタッフ・ディベロップメント（SD））など、計画的な人材育成により職員のプロフェッショナル化を推進するとともに、人事制度の適切な運用・改善を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成プランを具体化し、これに基づく研修を実施するとともに、人事異動への反映を検討する。 グローバル人材育成推進事業の実施にあたり、語学力の高い職員を配置する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材育成プランの具体化へ向けた体系図、研修受講履歴等のデータ管理手法や、研修体系の主要な柱となる「問題解決研修」について検討するとともに、各種研修を実施した。人事異動については、研修体系と人事評価との整合性を検討していくこととした。 グローバル人材育成推進室に、語学力が高く、海外業務経験のある契約職員1名を追加配置した。また、職員の語学力向上のための「職員英語力向上制度」を創設し、5名が受講した。 	1	Ⅲ		
--	--	---	---	---	--	--

（ウェイト付けの理由）

<p>第2 法人運営の改善に関する目標 3 効率的・合理的な業務執行に関する目標</p>
--

中期目標	より効率的、機動的な組織運営、教育研究のサポート機能の向上のため、仕事を見直し、効率的・合理的な業務執行を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
<p>74 職員の意識改革と仕事の見直しを行い、効率的・合理的な業務執行を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年度方針発表会、重点施策の進捗状況説明会を開催し、職員が同一方向性のもとに効率的・合理的な業務運営に取り組むよう、法人・大学の運営方針等を職員に周知する。 重点施策に各々が仕事の見直しに関する項目を盛り込み、業務の効率化・合理化を推進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 25年度運営方針等を周知し、共有化を図るため、年度方針・重点施策発表会を2キャンパスで開催した。 年度方針に基づき、各々が業務削減にかかる重点施策を掲げ、施設管理や年度計画進捗管理に関する業務の集約化、テレビ会議システムの積極利用による出張削減など、業務の効率化・合理化を推進した。 	1	Ⅲ		
<p>75 一層の業務システム化を目指すとともに、各種システムの統合的な管理を徹底する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> さらなるシステム化やエクセルの活用などにより効率化・合理化が可能な事務を洗い出し、その実施策を検討する。 各種システムの統合的な管理の 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「勤務管理簿」はじめ10件の事務について、エクセルマクロ機能を活用することにより、効率化を図った。 26年7月に情報課を新設することを決定し、システムの 	1	Ⅲ		

	仕組み・体制などを検討する。 ・システム管理にかかる内規等を整備するとともに、管理状況の調査を行う。	運営管理を担うこととした。 ・新設予定の情報課による統一的な内規整備に向けて、セキュリティポリシー・ガイドライン及び関係規程等に関する課題や改善点を整理した。また、教職員のアクセス権限の状況等を調査し、整理した。				
--	---	---	--	--	--	--

(ウェイト付けの理由)

第3 財務内容の改善に関する目標

中期目標	一定のルールに基づく運営費交付金を主な財源としつつ、外部研究資金、寄附金その他の自主財源の確保や、効率的な運営による管理的経費の抑制などにより、経営基盤を強化し、安定的な財務運営を実現する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど																							
				自己評価	委員会評価																								
76 法人運営の安定性と自律性を確保するため、外部研究資金、寄附金等自己収入の増加に向けた取り組みを強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費等の外部資金申請情報の集約と周知、申請のための研修会などを企画・実施する。 ・寄附講座の開設に向けた調整・検討を実施する。(県大) ・オペラなど大学が実施する事業に対する助成の申請を行う。(芸大) 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争的外部資金公募情報を定期的に全教員に周知するとともに、科研費助成事業への申請促進及び科研費獲得のための講習会・説明会を実施した。(参加教員数：76人) ・講座開設のための助成金の申請を行い、満額交付が認められた。(一般財団法人ワンアジア財団、平成26年度助成500万円) ・芸大が実施する事業として、25年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」に申請したが、不採択となった。その他、以下のとおり、外部研究資金、寄附金等を獲得した。 <p>【H25 外部資金獲得状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>県立大学</th> <th>芸術大学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>奨学寄附金</td> <td>9件(11,600千円)</td> <td>6件(3,400千円)</td> </tr> <tr> <td>受託研究費</td> <td>1件(210千円)</td> <td>4件(6,666千円)</td> </tr> <tr> <td>共同研究費</td> <td>12件(9,823千円)</td> <td>1件(5,000千円)</td> </tr> <tr> <td>科研費補助金等</td> <td>92件(141,942千円)</td> <td>6件(7,670千円)</td> </tr> <tr> <td>受託事業費等</td> <td>3件(1,782千円)</td> <td>7件(4,168千円)</td> </tr> <tr> <td>その他補助金</td> <td>4件(86,441千円)</td> <td>0件(0千円)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>121件(251,798千円)</td> <td>24件(26,904千円)</td> </tr> </tbody> </table> <p>[データ集5]</p>		県立大学	芸術大学	奨学寄附金	9件(11,600千円)	6件(3,400千円)	受託研究費	1件(210千円)	4件(6,666千円)	共同研究費	12件(9,823千円)	1件(5,000千円)	科研費補助金等	92件(141,942千円)	6件(7,670千円)	受託事業費等	3件(1,782千円)	7件(4,168千円)	その他補助金	4件(86,441千円)	0件(0千円)	計	121件(251,798千円)	24件(26,904千円)	1	Ⅲ	
	県立大学	芸術大学																											
奨学寄附金	9件(11,600千円)	6件(3,400千円)																											
受託研究費	1件(210千円)	4件(6,666千円)																											
共同研究費	12件(9,823千円)	1件(5,000千円)																											
科研費補助金等	92件(141,942千円)	6件(7,670千円)																											
受託事業費等	3件(1,782千円)	7件(4,168千円)																											
その他補助金	4件(86,441千円)	0件(0千円)																											
計	121件(251,798千円)	24件(26,904千円)																											
77 効率的、効果的な管理的経費の執行に努めるとともに、業務の見直しに	<ul style="list-style-type: none"> ・一括契約、長期契約などの対象 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙等の一括単価契約や情報機器のリース等の長 	1	Ⅲ																									

<p>よる経費抑制を推進する。</p>	<p>品目・事業のさらなる発掘を調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立大学の施設・設備改修計画策定にあたり、省エネ・省電力化の実施案を検討する。 ・教職員に対する電気使用量の開示等により、全学的に省エネ意識の向上を図る。 	<p>期契約を引き続き締結した。また、蛍光灯や事務用品などの一括購入においては、見積徴取業者や品目を増やすなど、より広範な取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ・省電力化の観点から、効率的な空調設備のあり方や、LED照明の効果的な活用方法について検討した。 ・県立大学においては、冷暖房稼働ルール周知や節電・省エネについて学内全体に呼びかけを行うとともに、各月、各棟の電気使用量を整理した。芸術大学においては、教育研究審議会にて、光熱水費の状況を提示し、全学的に省エネ意識の向上を図った。 																
<p>78 (指標) 一般管理費比率について 対前年度比減を目指す。 ※一般管理費比率＝一般管理費／(業務費＋一般管理費) (特殊要因除き)</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25年度一般管理費比率は7.2%となり、前年度比0.4%減少した。 <table border="1" data-bbox="1115 772 1828 957"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>業務費</td> <td>7,189,503 千円</td> <td>6,812,729 千円</td> </tr> <tr> <td>一般管理費</td> <td>587,805 千円</td> <td>528,794 千円</td> </tr> <tr> <td>一般管理費比率</td> <td>7.6%</td> <td>7.2%</td> </tr> </tbody> </table>		H24	H25	業務費	7,189,503 千円	6,812,729 千円	一般管理費	587,805 千円	528,794 千円	一般管理費比率	7.6%	7.2%	1	Ⅲ		
	H24	H25																
業務費	7,189,503 千円	6,812,729 千円																
一般管理費	587,805 千円	528,794 千円																
一般管理費比率	7.6%	7.2%																

(ウェイト付けの理由)

第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

<p>中期目標</p>	<p>自己点検・自己評価や外部評価等を定期的に行うとともに、評価結果を積極的に公表し、教育研究及び業務運営の継続的な改善に結び付ける。</p>
-------------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
<p>79 中期計画・年度計画に対する自己点検・自己評価、認証評価等の外部評価を定期的実施し、評価結果を速やかに公表するとともに、教育研究及び業務運営の改善に活かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中期計画・年度計画に対する自己点検・評価の実施により、教育研究及び業務運営の改善を推進する。 ・県大において教養教育にかかる外部評価を実施する。 (芸大における外部評価は2年ごとに実施予定) 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24年度及び第一期中期目標期間における業務実績及び25年度業務実績について、自己点検・評価を実施した。業務実績に関する評価結果については、教職員へフィードバックするとともに、改善に向けて取り組んだ。 ・評価委員(3名)による教養教育センター外部評価を実施し、センターの運営や新教養教育カリキュラムについて評価及び提言を受けた。 <p>[参考資料3]</p>	1	Ⅲ		

(ウェイト付けの理由)

第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
2 情報公開等の推進に関する目標

中期目標	大学の教育研究の実績や法人の業務運営等の情報を公表し、県民への説明責任を果たすとともに、戦略的・効果的な広報活動を展開し、大学の知名度を高める。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
80 大学・法人の活動情報を積極的に発信し、県民への説明責任を果たすとともに、大学のブランド・知名度の向上に向けた戦略的な広報活動を展開する	<ul style="list-style-type: none"> 大学の特色・魅力を志願者・学生・卒業生・県民・企業等に効果的・効率的かつ着実に発信していく広報活動計画を検討・策定する。 グローバル人材育成事業など特色ある教育研究活動を積極的に発信する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各大学・法人の情報・活動内容等については、ホームページ等により適切に開示した。各大学のノウハウの相互活用、効果的な情報発信に向け、広報活動計画を策定した。 グローバル人材育成推進事業について、同志社大学（11月）、早稲田大学（12月）にて、他大学との共催によるイベントを開催するとともに、本学（12月）にてセミナーを開催し、特色ある教育研究活動を積極的に外部・地域に発信した。 	1	Ⅲ		
81 平成 28 年度に迎える芸術大学創立 50 周年に際し、県民をはじめ多くの人々にとって芸術大学がより身近な存在となるよう、記念事業を企画し、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 委員会を設置し、記念事業の企画・調整及び財源確保などの検討をスタートする。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「創立 50 周年記念事業委員会」を設置し、企画内容や寄附金制度等記念事業の具体的検討を開始した。 	1	Ⅲ		

(ウェイト付けの理由)

第5 その他業務運営に関する重要目標
1 施設・設備の活用及び安全管理に関する目標

中期目標	大学施設を良好で安全安心な教育研究環境に保つため、施設の機能保全及び維持管理を計画的に実施するとともに、学生の安全確保、防災対策等の危機管理体制を強化する。 また、大学の施設を開放し、豊かな地域社会づくりに寄与する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
82 良好で安心安全な教育研究環境を維持するため、施設・設備の点検を定期的実施するとともに、緊急対応	<ul style="list-style-type: none"> 県大・芸大の施設・設備の機能を点検し、緊急度の高いものに 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備点検スケジュールを策定、順次実施するとともに、漏水対策、トイレ修繕、池防水補修等の緊急度が 	1	Ⅲ		

が必要なものについて改修・修繕を実施する。	対応する。 ・施設点検とその結果分析などをもとに施設・設備改修計画の策定に着手する。	高い事案に対応した。 ・メーカーによる点検・結果分析等をもとに、建物にかかる施設・設備改修計画策定に着手した。付帯設備については、点検結果をもとに台帳を作成し、状況把握を進めた。				
83 芸術大学の老朽化施設・設備の整備について、耐震改修基本調査の結果を踏まえながら、愛知県の施設整備計画の策定に向け、県と共に引き続き検討を進める。	・愛知県の整備計画の早期策定のための各種調査等に積極的に協力する。	「年度計画を十分に実施している」 ・芸大の施設整備について、副知事への嘆願書の提出、学事振興課長への陳情など愛知県への積極的な働きかけを実施した。また、県の耐震改修デザイン案に対して、学外有識者等を含む専門部会において検討を重ね、意見書を提出した。	1	Ⅲ		
84 大規模災害に備えた安全対策、防災対策などの充実を図り、訓練等の実践を推進する。	・危機管理推進要綱等に基づくマニュアル等の整備・充実を図るとともに、訓練等を実施する。 ・大規模地震の発生に備え、地震対応マニュアル（携帯版）を作成し、学生及び教職員全員に配布する。 ・大規模災害の発生に備えた備蓄物品の種類、数量等そのあり方について検討し、整備する。	「年度計画を十分に実施している」 ・不審者対応について、両大学共通のマニュアルを作成し、それを基に、各大学・キャンパスの個別マニュアルを作成した。例年通り、両大学において防災訓練を実施した。 ・震災ボランティアを経験した学生からの意見等も踏まえ、災害時対応マニュアルを見直し、学生・教職員に配布した。 ・県大では、3か年計画（25年度は2年目）に基づき備蓄品入荷・配備を完了した。芸大では、備蓄物品の種類・数量等そのあり方について検討し、26年度以降順次整備していくこととした。	1	Ⅲ		
85 学内の施設の利用状況を踏まえ、大学施設を積極的に地域社会に開放する。	・大学施設の地域社会への開放に関する方針・実施案・大学施設の特典等を検討し、実施する。	「年度計画を十分に実施している」 ・大学施設の地域社会への開放について、講義への影響や運用上の課題等を整理・検討した結果、県大野球場を開放することを決定し、26年度中の貸出開始に向けて運用方法や関連規程の改正案を検討した。	1	Ⅲ		

(ウェイト付けの理由)

第5 その他業務運営に関する重要目標

2 社会的責任及び法令遵守に関する目標

中期目標

人権の尊重、環境への配慮など、社会的責任に十分留意した教育研究環境の実現や、教育研究等の諸活動に係る法令等の的確な遵守のための取組を推進する。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
86 人権の尊重、環境への配慮など、社会的責任に留意した教育研究環境を実現するため、教職員・学生への研修や啓発活動などにより意識向上を図る。	・教職員及び学生を対象とした人権・ハラスメント研修を実施するとともに、意識啓発強調期間の設定等PRを実施する。	「年度計画を十分に実施している」 ・外部講師を招き、教職員を対象としたハラスメント講習会を実施した。また、学生向けには、「ハラスメント防止啓発学習会」を開催した。メール、ポータルサイト、リーフレット、ポスター等による周知・啓発を継続した。	1	Ⅲ		
87 法令遵守を推進するため、倫理関係諸規程についての継続的な研修や意識啓発に努める。	・研修や研究倫理審査委員会の開催、研究活動の不正行為に関する取扱い規程の周知徹底等により、教職員に対する意識啓発を推進する。	「年度計画を十分に実施している」 ・教員への意識啓発のため、科研費助成事業講習会・説明会にて、研究費の不正使用、研究における不正行為の防止に関する資料を配布した。また、研究における倫理的配慮の確保の観点から、「研究倫理審査委員会」（全11回（県大））を開催した。職員向けには新たに「コンプライアンス研修」を実施し、意識啓発を推進した。	1	Ⅲ		
88 情報管理の強化に向け、情報セキュリティ対策を推進する。	・教職員を対象とした情報リテラシー向上のため、研修会等を実施する。 ・セキュリティ診断やネットワーク回線の更新等各種セキュリティ対策を実施する。	「年度計画を十分に実施している」 ・情報セキュリティ講習会4回（情報システム管理者向け1回、一般教職員向け3回）、情報リテラシー教育としてEXCEL基礎・PowerPoint・EXCELマクロ講習（全7回）を実施した。また、より効果的な教職員のリテラシー向上のため、eラーニング研修を次年度実施に向けて検討した。 ・県大学術文化交流センターや芸大新音楽学部棟などにおけるネットワーク回線の整備・更新を行うとともに、サーバのセキュリティ診断を実施した。	1	Ⅲ		

(ウェイト付けの理由)

第6 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

第7 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
<p>1 短期借入金の限度額 1.2億円</p> <p>2 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすることも想定される。</p>	<p>1 短期借入金の限度額 1.2億円</p> <p>2 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすることも想定される。</p>	該当なし

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

中期計画	年度計画	実績
予定なし	予定なし	該当なし

第9 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	・決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	・該当なし

第10 施設・設備に関する計画

中期計画		年度計画	実績			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設・設備の内容</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中期計画の達成に必要な施設・設備の整備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等</td> <td>教育研究環境整備等積立金、その他自己収入等</td> </tr> </tbody> </table>	施設・設備の内容	財源	中期計画の達成に必要な施設・設備の整備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等	教育研究環境整備等積立金、その他自己収入等	施設及び設備に関する計画 <ul style="list-style-type: none"> ・新音楽学部棟ロビー空調機器設置等 240,931 千円 (芸大) ・大学院教育用施設増築 5,250 千円 (県大) ・端末室AV機器整備等 36,856 千円 (県大) ・池防水修繕等 14,990 千円 (芸大) 	施設及び設備に関する計画 <ul style="list-style-type: none"> ・新音楽学部棟ロビー空調機器設置等 230,876 千円 (芸大) ・大学院教育用施設増築 5,198 千円 (県大) ・端末室AV機器整備等 70,364 千円 (県大) ・池防水修繕等 13,414 千円 (芸大)
施設・設備の内容	財源					
中期計画の達成に必要な施設・設備の整備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等	教育研究環境整備等積立金、その他自己収入等					
<p>注) 中期目標を達成するために必要な業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や老朽化度合い等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもある。</p> <p>注) 額については、各事業年度の予算編成過程等において決定される。</p>						

○計画の実施状況等

第11 人事に関する計画

中期計画	年度計画	実績
<p>教育研究機能を始めとする大学の諸機能の充実と活性化並びに法人運営の効率化を進めるための人事制度を運用する。</p> <p>中期目標を達成するための措置に掲げる人事諸制度の事項について、着実に取り組む。</p>	<p>・中期計画に掲げる人事制度の事項について、着実に取り組む。</p>	<p>「計画の実施状況等」を参照</p>

第12 積立金の使途

中期計画	年度計画	実績
<p>前中期目標期間繰越積立金については、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p>	<p>・前中期目標期間繰越積立金については、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p>	<p>・県立大学大学院教育用施設増築、芸術大学新音楽学部棟ロビー空調機器設置等に充当</p>

平成25年度 学部、研究科の定員充足率

大学名	学部の学科、研究科の専攻名		在籍数 (名)	
(旧) 県立大学	昼間主	文学部	16	
		国文学科	5	
		英文学科	5	
		日本文化学科	5	
		児童教育学科	0	
		社会福祉学科	1	
		外国語学部	24	
		英米学科	3	
		フランス学科	2	
		スペイン学科	13	
		ドイツ学科	3	
		中国学科	3	
		夜間主	文学部	17
			国文学科	3
	英文学科		7	
	日本文化学科		3	
	児童教育学科		1	
	社会福祉学科		3	
	外国語学部		28	
	英米学科		12	
	フランス学科		3	
	スペイン学科		4	
	ドイツ学科		5	
	中国学科		4	
	昼間主		情報科学部	9
			情報システム学科	7
		地域情報科学科	2	
	昼間主計		49	
	夜間主計		45	
	学部計		94	
国際文化研究科		2		
	前期 国際文化専攻	0		
	後期 国際文化専攻	2		
情報科学研究科		2		
	前期 情報科学専攻	0		
	後期 情報科学専攻	2		
大学院合計		4		

看護大学	看護学部	看護学科	2
	看護学研究科	修士課程	0

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	収容定員	収容数	定員充足率	
		(a) (名)	(b) (名)	(b)/(a)*100 (%)	
(新) 県立大学	外国語学部	1,360	1,661	122	
		英米学科	400	477	119
		ヨーロッパ学科	600	730	122
		フランス語圏専攻	200	232	116
		スペイン語圏専攻	200	248	124
		ドイツ語圏専攻	200	250	125
		中国学科	200	261	131
		国際関係学科	160	193	121
		日本文化学部	400	445	111
			国語国文学科	200	228
	歴史文化学科		200	217	109
	教育福祉学部	360	385	107	
		教育発達学科	160	169	106
	看護学部	360	370	103	
		看護学科	360	370	103
	情報科学部	360	391	109	
		情報科学科	360	391	109
	学部合計		2,840	3,252	115
	国際文化研究科		55	51	93
		博士前期 国際文化専攻	30	21	70
		博士前期 日本文化専攻	9	13	144
		博士後期 国際文化専攻	10	13	130
		博士後期 日本文化専攻	6	4	67
	人間発達学研究科		29	37	128
		博士前期 人間発達学専攻	20	29	145
		博士後期 人間発達学専攻	9	8	89
	看護学研究科		54	62	115
		博士前期 看護学専攻	42	48	114
		博士後期 看護学専攻	12	14	117
	情報科学研究科		75	71	95
		博士前期 情報システム専攻	20	23	115
		博士前期 メディア情報専攻	20	20	100
		博士前期 システム科学専攻	20	20	100
		博士後期 情報科学専攻	15	8	53
	大学院合計		213	221	104

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	収容定員	収容数	定員充足数
		(a) (名)	(b) (名)	(b)/(a)*100 (%)
芸術大学	美術学部	380	409	108
	美術科	200	214	107
	日本画専攻	40	43	108
	油画専攻	100	107	107
	彫刻専攻	40	42	105
	芸術学専攻	20	22	110
	デザイン・工芸科	180	195	108
	デザイン専攻	140	154	110
	陶磁専攻	40	41	103
	音楽学部	400	421	105
	音楽科	400	421	105
	作曲専攻	40	47	118
	声楽専攻	120	119	99
	器楽専攻	240	255	106
	学部計	780	830	106
	美術研究科	95	113	119
	博士前期 美術専攻	80	98	123
	博士後期 美術専攻	15	15	100
	音楽研究科	69	77	112
	博士前期 音楽専攻	60	63	105
博士後期 音楽専攻	9	14	156	
大学院合計	164	190	116	